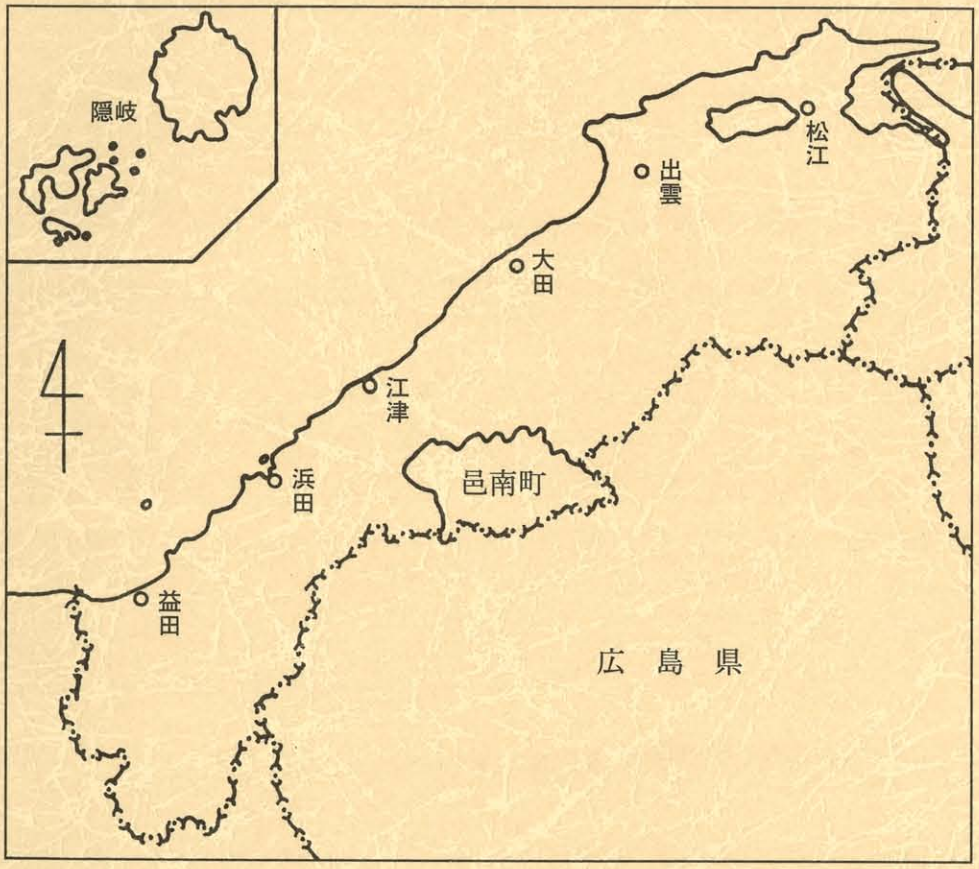
邑南町埋蔵文化財調査報告書第１集

島根県邑智郡邑南町

福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡
風呂ノ上遺跡発掘調査報告書

町道小河内淀原線道路改良工事に伴う発掘調査



2005年3月

島根県邑智郡邑南町教育委員会

序

邑南町は平成16年10月１日羽須美村・瑞穂町・石見町が合併し誕生しました。邑南町の黎明は２万年以上前の旧石器時代に求めることができ、遺跡の町といわれるように、多くの埋蔵文化財が町内各地に点在しております。

これらの貴重な文化財の保存保護、活用のため、旧町村から引き続き分布調査や発掘調査を実施しているところであります。

このたび、町道小河内淀原線道路改良工事に伴い、建設予定地内の福音寺遺跡、高見屋横瓦窯跡、出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡を調査いたしました。調査の結果、弥生時代後期の住居跡をはじめとして貴重な資料を得ることができました。この報告書は、その調査結果をまとめたものであり、広く各方面でご活用いただければ幸いであります。

なお、調査に当たりご指導いただいた島根県文化財保護指導委員吉川正氏、島根県教育庁文化財課をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げる次第であります。

平成17年３月

邑南町教育委員会
教育長　立　木　光　男

例　　言

1．本書は島根県邑智郡邑南町瑞穂地区における町道小河内淀原線道路改良工事に伴い発掘調査を実施した福音寺遺跡、高見屋横瓦窯跡、出羽代官所跡ならびに風呂ノ上遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は邑南町(旧瑞穂町)役場建設課から委託を受けて邑南町(旧瑞穂町)教育委員会が実施した。

3．本書は森岡弘典、角矢永嗣、佐々木義彦が協議し執筆した。

4．本書掲載の図面作成は、森岡弘典、角矢永嗣、佐々木義彦が行い、図の浄書は市山眞由美が行った。

5．本書掲載の遺構の撮影は佐々木義彦が行い、遺物の撮影は角矢永嗣が行った。

6．本書に掲載した地形図は国土交通省国土地理院の承認を得て（承認番号平成７中複第276号）同院発行の25,000分の１を複製した邑南町全図を使用したものである。

7．本書掲載の地形図に表示したＸ軸、Ｙ軸は国土調査法による第Ⅲ座標系の軸方向である。地形測量図、遺構実測図の矢印は磁北を示している。

8．出土遺物は邑南町教育委員会で保管している。

9．遺物実測図の断面黒塗は須恵器である。

10．地形測量・調査用基準杭の設置は測地技研株式会社に委託した。

島根県邑智郡邑南町

福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡発掘調査報告書

目　次

序

頁

Ⅰ．調査に至る経緯と調査経過

1．　調査に至る経緯 …… 1

2．発掘調査の経過 …… 2

Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 7

Ⅲ．調査の概要

1．　福音寺遺跡の調査 …… 13

2．　高見屋横瓦窯跡の調査 …… 15

3．　出羽代官所跡の調査 …… 16

4．　風呂ノ上遺跡の調査 …… 18

Ⅳ．まとめ …… 31

図版・挿図・表目次

図版第１　ａ．福音寺遺跡遠景（北から）　ｂ．同近景(南西から)　ｃ．石組遺構(北東から)
図版第２　ａ．福音寺遺跡石組遺構(南東から)　ｂ．同(南西から)　ｃ．同完掘状況(南東から)
図版第３　ａ．福音寺遺跡出土遺物　ｂ．同　ｃ．同
図版第４　ａ．福音寺遺跡出土遺物　ｂ.高見屋横瓦窯跡遠景(北東から)　ｃ．同近景(北西から)
図版第５　ａ．高見屋横瓦窯跡調査風景(南から)　ｂ．同完掘状況(北西から)　ｃ.同完掘状況(同)
図版第６　ａ．高見屋横瓦窯跡遺物出土状況(北西から)　ｂ.同出土遺物　ｃ.同
図版第７　ａ．高見屋横瓦窯跡出土遺物　ｂ．出羽代官所跡(西から)　ｃ.同(東から)
図版第８　ａ．出羽代官所跡トレンチ(西から)　ｂ.同(同)　ｃ.同(同)
図版第９　ａ．出羽代官所跡トレンチ出土遺物　ｂ.同　ｃ.風呂ノ上遺跡遠景(北から)
図版第10　ａ．風呂ノ上遺跡近景(東から)　ｂ.竪穴住居跡検出状況(南から)　ｃ.同(同)
図版第11　ａ．風呂ノ上遺跡竪穴住居跡完掘状況(南から)　ｂ．同(同)　ｃ．溝状遺構１、土抗１・２完掘状況(同)
図版第12　ａ．風呂ノ上遺跡溝状遺構２、土抗３完掘状況(南東から)　ｂ．溝状遺構３完掘状況(南から)　ｃ．竪穴住居跡床面出土遺物
図版第13　ａ．風呂ノ上遺跡竪穴住居跡床面出土遺物　ｂ．同　ｃ．同
図版第14　ａ．風呂ノ上遺跡溝状遺構１出土遺物　ｂ．埋土や包含層から出土した遺物　ｃ．同
図版第15　ａ．風呂ノ上遺跡埋土や包含層から出土した遺物　ｂ．同　ｃ．同
図版第16　ａ．風呂ノ上遺跡埋土や包含層から出土した遺物　ｂ．同　ｃ．同
図版第17　ａ．現地見学会風景　ｂ．同
第１図　邑南町域と遺跡位置図 …… 6
第２図　福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡・風呂ノ上遺跡付近遺跡分布図 …… 9
第３図　福音寺遺跡地形測量図 ……10
第４図　高見屋横瓦窯跡地形測量図 ……11
第５図　出羽代官所跡・風呂ノ上遺跡地形測量図 ……12
第６図　石組遺構実測図 ……13
第７図　福音寺遺跡出土遺物実測図 ……14
第８図　高見屋横瓦窯跡出土遺物実測図 ……15
第９図　出羽代官所跡トレンチ実測図 ……16
第10図　トレンチ出土遺物実測図(１) ……16
第11図　トレンチ出土遺物実測図(２) ……17
第12図　風呂ノ上遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配置図 ……19
第13図　竪穴住居跡実測図 ……20
第14図　竪穴住居跡床面から出土した遺物実測図 ……21
第15図　溝状遺構１・２・３実測図 ……22
第16図　溝状遺構１出土遺物実測図 ……22
第17図　土抗１・２・３実測図 ……23
第18図　埋土や包含層から出土した遺物(縄文土器・弥生土器)実測図(1) ……24
第19図　埋土や包含層から出土した遺物(弥生土器)実測図(2) ……25
第20図　埋土や包含層から出土した遺物(須恵器)実測図(3) ……26
第21図　埋土や包含層から出土した遺物(貿易磁器)実測図(4) ……26
第22図　埋土や包含層から出土した遺物(中世陶器)実測図(5) ……27
第23図　埋土や包含層から出土した遺物(石器)実測図(6) ……27
第24図　出羽代官所絵図 ……32
第１表　福音寺遺跡出土遺物観察表 ……28
第２表　出羽代官所跡出土遺物観察表 ……28
第３表　風呂ノ上遺跡出土遺物観察表 ……28

Ⅰ．調査に至る経緯と調査経過

1．調査に至る経緯

平成16年10月１日に旧羽須美村・瑞穂町・石見町が合併し、邑南町として新たなスタートを切った。調査は旧瑞穂町で実施し、報告書作成は合併後実施した。

町道小河内淀原線は、通勤や通学また生活道路として町民の使用頻度が高い路線であり、出羽地区と田所地区を結ぶ重要な路線でもあるが、交通量が多い割に狭小なため危険も多く、早くから道路改良が望まれていた。

平成13年に町道小河内淀原線の改良工事が計画され、計画地内に存在する福音寺遺跡、高見屋横瓦窯跡、出羽代官所跡の取扱いについて瑞穂町役場建設課と瑞穂町教育委員会で協議されたが、計画変更は困難と判断されたため、平成14年度に福音寺遺跡、平成15年度に高見屋横瓦窯跡の発掘調査を、平成16年度に出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡の発掘調査を行うこととなった。

調査は次の調査体制で行った。

平成14・15年度調査体制

調査主体　瑞穂町教育委員会

調 査 員　森岡　弘典（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）
　　佐々木義彦（瑞穂町教育委員会主任主事）

調査指導　吉川　　正（島根県文化財保護指導委員）
　　島根県教育委員会文化財課

事 務 局　三宅　正隆（瑞穂町教育委員会教育長）
　　平川　　進（瑞穂町教育委員会教育課長）
　　石橋　　悟（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

発掘作業　（14年度）上田忠満、高梨数男、日高武司、日高房雄、日高政雄、貫里孝史、貫里初良
　　（15年度）漆谷勉、高梨数男、貫里孝史、日高武司、松島利郎
整理作業　市山眞由美

平成16年度調査体制

調査主体　瑞穂町教育委員会（９月まで）
　　邑南町教育委員会（10月から）

調 査 員　森岡　弘典（瑞穂町教育委員会教育課長補佐、９月まで）
　　（邑南町教育委員会生涯学習課長補佐、10月から）
　　角矢　永嗣（邑南町教育委員会生涯学習課主任主事、10月から）
　　佐々木義彦（瑞穂町教育委員会主任主事、９月まで）
　　（邑南町教育委員会生涯学習課主任主事、10月から）

調査指導　吉川　　正（島根県文化財保護指導委員）

事 務 局　三宅　正隆（瑞穂町教育委員会教育長、９月まで）
　　立木　光男（邑南町教育委員会教育長、10月から）
　　平川　　進（瑞穂町教育委員会教育課長、９月まで）
　　（邑南町教育委員会生涯学習課長、10月から）
　　石橋　　悟（瑞穂町教育委員会教育課長補佐、９月まで）
　　三浦　秀樹（邑南町教育委員会生涯学習課主査、10月から）

発掘作業　石原八重美、井上章、上田民子、上田忠満、漆谷勉、大平一雪、国信明徳、
　　国信利之助、小林文子、佐貫嘉昭、高梨数男、高橋久夫、中桐信枝、中村佐和子、
　　貫里孝司、野田正治、服部房人、服部芳之助、日高一人、日高武司、日野武信

整理作業　市山眞由美

なお、発掘調査を円滑に進めるために地権者の野田国人氏、三上準之助氏、邑南町役場建設課には多大なるご配慮とご協力をいただいた。また、本書の作成については、木邑恂氏、富永公美氏、三上憲昭氏、井坂猛氏、奥田真隆氏、石田雅春氏、森田仁政氏（以上旧瑞穂町文化財保護審議会委員）からご教示をいただいた。記して謝意を表したい。

２．発掘調査の経過

（１）福音寺遺跡、高見屋横瓦窯跡発掘調査の経過

平成14年度は平成14年７月24日から平成15年１月17日まで福音寺遺跡の確認調査を行い、平成15年10月６日から10月14日まで高見屋横瓦窯跡の調査を行った。調査により福音寺遺跡からは中世の古墓１基を検出した。

福音寺遺跡調査日誌抄

2002(平成14)年

7月24日（晴）午前中は調査区内の立木伐採、除草を行うとともに発掘機材を搬入する。午後から調査区内にトレンチを設定し、荒掘りを開始する。調査区東側畑地にて土器片を表採する。

7月25日（晴／曇）伐採した立木の根を除去しながら荒掘りを続ける。30cmほど掘り下げたところで土質が表土から暗茶褐色度へと変化する。

7月26日（晴｜曇）暗茶褐色土層より須恵器片、土師器片が出土する。さらに掘り進めると、鉄滓、黒曜石が出土する。

7月29日（晴）個人墓地の東側にトレンチを設け荒掘りを開始する。耕作土の下は茶褐色土で黄褐色土のブロックが混入している。このトレンチは地山面まで非常に浅かった。

8月1日（晴）調査区東側の畑地にトレンチを設け、調査を続ける。

8月6日（晴）畑地に設けたトレンチの調査を進めた結果、耕作土の下はすぐ地山であることが判明した。戦後すぐ位の時期には、調査区東側畑地の表面に灰色の硬い土器の破片が多量に散乱していたと地権者からご教示いただいた。

8月7日（晴）引き続き調査区東側畑地の調査を行う。調査区東端から個人墓地までの土層は、ほぼ地山直上に耕作土があり、遺跡存在の可能性は薄い。

8月8日（晴｜曇）調査を終了したトレンチの写真撮影を行う。

8月9日～8月26日　町主催行事、盆のため調査を休みとする。

8月27日（晴）本日より現場を再開する。調査区西側の畦畔上にトレンチを設け調査を行う。

8月28日（曇）畦畔上のトレンチを南側に延長し、調査を継続する。調査区南側に広がる田は、桑畑であったものを圃場整備時に田にし、調査区を東西に走る畦畔も、もともと3尺だったものを車が走れるように拡張したと地権者よりご教示いただいた。

8月29日（曇）調査区西側で調査済みのトレンチの写真撮影、実測作業を行い、本日で遺跡確認調査を終了する。確認調査の結果、個人墓地に隣接する林内のトレンチで遺物が出土しており、その東西に広がる調査区のトレンチ調査では遺構、遺物ともに検出、出土しなかったことから、林内に遺跡が存在するものとして今後発掘調査を行うこととする。

10月15日～17日　福音寺遺跡発掘調査を開始する。林内のトレンチで遺跡確認調査時に出た土を東側の調査済みトレンチに移動する。

10月18日（晴）林内トレンチ内にサブトレンチを入れ、基本層序を確認する。その結果、表土、埋土、黒褐色土、暗茶褐色土、地山の5層が確認できた。

10月21日（曇）トレンチ全体を掘り下げる作業に入る。埋土の層から鉄滓が数点出土した。

10月22日～11月1日　引き続き掘り下げ作業を続ける。

11月5日（曇／晴）林内トレンチ西側の黒褐色土を除去する作業を行う。黒褐色土の中から須恵器が出土した。これまで出土した遺物との層序関係を考慮すると、黒褐色土から上で出土した遺物はすべて流れ込みであると判断される。

11月6日（晴）遺物の出土状況を写真撮影したあと、遺物の取り上げを行った。その後引き続き掘り下げ作業を継続した。中央に設けたサブトレンチからは厚さ20cm程度の石の一部が検出された。遺構に伴うものかどうかは不明である。

11月7日（晴）昨日検出した石のレベルでトレンチ全体を掘り下げる。東西方向に約1.2mの大きさの石組み遺構であることが判明した。

11月11・12日　石組み遺構の他に遺構が存在する可能性もあったため、それを確認する調査を行ったが、存在しないことが判明した。

11月13日（曇）石組み遺構を検出した。東西方向に約２ｍ、南北方向に約１ｍの規模を有する。石組みの外側が揃っているところなどから、中世の古墓の基壇である可能性が高い。

11月15日（曇）個人墓地東側にトレンチを設定し調査を行うが、個人墓地建設の際に攪乱されており、ここには遺構がないことが判明した。

11月20日（晴｜曇）石組み遺構の掘り方を検出する。本日午後より藤田担山氏により祭祀が行われ、今後の調査の無事を祈る。

11月21・22日・12月２日　石組み遺構実測用の杭を東西方向、南北方向に設置し、覆土を半裁してセクション実測を行う。

12月３日（曇｜晴）覆土をすべて除去し石組みを完全に検出した。外側から中央に向かって内傾しているところを見ると、被葬者が入れられていた埋葬施設が腐敗したことで石の重みを支えきれず内側に向かって落ち込んでいるものと思われる。検出後石組みの平面実測を行う。

12月５日（曇）石組み遺構の石を除去する作業を行う。石組みの下に詰められた土の中には粘土が混じっている部分がある。

12月６日（曇）石組みの抜き取り状況を写真撮影し、石の計測を行う。その後、四分法により内部の土の除去作業を行う。平行して、積雪に備えた準備を行う。

12月７日～12月17日　積雪のため作業できず。

12月18日（曇）掘り方を掘り下げる作業を行う。遺構西側の黒褐色土内から須恵器片が出土した。

12月19日（曇）掘り方の掘り下げを終了した後、掘り方の実測を行う。

12月20日（曇｜晴）林内トレンチ西側の黒褐色土の除去作業をおこなう。年内の作業は本日にて終了する。

2003(平成15)年

１月９日～１月10日　昨年末に引き続き黒褐色土の除去作業を行う。寒さと悪条件の中で思うように作業が進まない。

１月16日（曇）今年一番の寒波が襲来し、瑞穂では－9.6℃を記録した。黒褐色土の除去作業を行う。

１月17日（曇｜晴）黒褐色土の除去を完了する。地山はトレンチ西端部から中央部に向かって急激に落ち込んでおり、落ち込みきったところで地山を掘り込んで土坑をつくり、古墓の基壇が築造されていた。完掘状況を写真撮影し、調査を終わる。

高見屋横瓦窯跡調査日誌抄

2003(平成15)年

10月６日（晴）本日より高見屋横瓦窯跡の発掘調査を開始する。調査区南側は段丘端部で時代が違う遺跡の存在も想定されたため、南北方向にトレンチを設置し調査を開始する。

10月７日（晴）引き続き調査区南側のトレンチ調査を行う。トレンチを入れた段丘端部は少し前までは畑として利用されていたと地権者からご教示いただいた。

10月８日（晴）トレンチ調査を終了する。地山面まで非常に浅く、遺構、遺物とも発見できなかった。

10月９日（晴）調査区北側の斜面の調査を開始する。ごみ捨て場として利用されていたようで、ごみが大量に出てくる。斜面にトレンチを設定し、調査を行う。

10月10日（晴）トレンチ北端部の表土中にて瓦を２点、瓦焼成用部材を４点、鎹を１点採取した。斜面上にはこれら以外にも破損した瓦などが表土中に散乱しており、一部の瓦は焼成用部材とともに積み重ねてあった。

10月14日（晴）斜面上のトレンチ調査の結果、遺構は検出できなかった。本日で高見屋横瓦窯跡の調査を終了する。

（２）出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡発掘調査の経過

平成16年度は６月９日から９月17日まで出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡の発掘調査を実施した。

調査区は出羽南岸の河岸段丘端部に位置し、周知の遺跡として出羽代官所跡が遺跡地図に掲載さ

れている。今回の調査は代官所跡の範囲が段丘端部まで及ぶ規模のものかどうかが注目されていたが、地形の状況からもっと古い遺跡の存在も想定された。

調査の結果、代官所に直接つながる遺構は発見されなかったものの、代官所関連の遺物、弥生時代の住居跡１棟と縄文時代、弥生時代、歴史時代の遺物が発見された。

出羽代官所跡、風呂ノ上遺跡調査日誌抄

2004(平成16)年

6月９日（晴）本日より調査を開始する。調査区西端部から荒掘りを開始するが、耕作土の下はすぐ地山が現れる。畑地造成の際、地山面まで削られているようであった。

6月10日（晴）引き続き表土除去作業を続ける。

6月14日（晴）調査区南側から北側に向かって表土除去を行う。かなり厚い埋土であることが判明する。

6月15・16日　調査区中央部に南北方向のトレンチを設け、調査を行う。トレンチの東側をA区、西側をB区とする。その結果、A区北側に遺構が存在している可能性がある。それがB区につながっているかどうか今後確認しなければならない。

6月17日・22日　調査当初B区に置いた残土を調査区西端部へ移す作業を行うとともに、北側の段丘端部に土留のネットを設置。

6月23日（晴）残土移動作業を終了したため、B区の掘り下げ作業を開始する。

6月28日（晴）引き続きB区の調査を行う。埋土中より弥生土器、中世の擂鉢が、セクションベルト中に弥生土器が出土している。

6月29日（晴）セクションベルト中の弥生土器の写真撮影を行う。その後、再びB区の掘り下げ作業を行う。

7月１日（晴）B区を精査するが遺構らしきものは見当たらない。A区で検出されている遺構がB区につながっているかどうか引き続き調査する必要がある。

7月６日（晴）B調査区東端部にて溝状遺構を検出する。精査の結果、溝状遺構は南北方向に作られていることが判明する。

7月７日（晴）セクションベルト実測、写真撮影を行った後、セクションベルトを除去する。

7月８日（晴／雨）住居跡の覆土除去作業を行う。連日の好天で覆土が硬くしまり、非常に作業効率が悪い。

7月９日（晴／雨）引き続き覆土の除去を行う。B区は遺構の残存状況が良好であると思われるが、A区については埋土が非常に深く遺構面が検出できない。

7月12日（曇／晴）覆土の除去作業を行う。

7月14日（晴）A区で住居跡の掘り方を検出した。A区に比べてB区は覆土の除去が遅れているため、今後B区を重点的に掘り下げる。

7月15日（曇｜晴）B区の掘り下げを引き続き行う。

7月16日（曇／晴）住居跡の掘り方の検出作業を行った。A区の掘り方は明確であるもののB区の掘り方は不明瞭であった。セクション実測後写真撮影を行った。

7月21日（曇）住居跡遺構内を精査する。西側、南側の掘り方は明瞭に検出できるものの、東側は不明瞭な部分が多い。

7月22日（曇／晴）引き続き遺構内を精査する。住居跡の東側壁面は明瞭に検出できなかった。住居跡の南東側では土坑状遺構が３基検出された。

7月27日（晴）住居跡検出状況を写真撮影した後遺構内の黒色土除去を行う。平行して加納昭嘉氏宅西側にある平坦面の調査を開始する。この平坦面を西側調査区と名づける。

7月28日（晴）風呂ノ上遺跡住居跡内の精査を行い、ピットらしき穴を検出した。西側調査区は近年ごみ捨て場として利用されていたためか、非常にごみが多い。西側調査区の中央部には巨大な

石が置いてある。

7月29日（晴）住居跡内で検出されたピットのセクション実測、写真撮影を行う。住居跡から南東部3ｍほどのところで検出された土坑状遺構は複数検出されているが、溝状遺構である可能性もあるので精査する。

7月30日（晴）住居跡南側で溝状遺構を2ヶ所検出した。南側から進入する雨水から住居を守るための設備であると推測される。西側トレンチの調査を本日終了する。

8月3日（晴）住居跡南側の溝状遺構のセクション実測、写真撮影を行った後、溝状遺構を完掘した。平行して東側溝状遺構の検出作業を行った。この遺構の南側では掘り方が明瞭であるが、北側は攪乱されているためか不明瞭である。

8月4日（曇）東側溝状遺構のセクション実測、写真撮影を行った後、完掘した。B区中央部に設けたトレンチの中から弥生土器が叩き潰したような状況で黒色土中から出土した。

8月5日（晴）住居跡内部の精査と平行してB区中央トレンチの黒色土除去を行う。

8月17日（曇）B区中央トレンチの調査を引き続き行うが、遺物、遺構ともにない。

8月20・25・26日　引き続きB区中央トレンチの黒色土除去を行うが、遺物、遺構とも検出、出土しなかった。

8月27日（晴）いままで検出した遺構の平面実測を行う。

9月9日（晴）現地見学会の準備を行う。

9月12日（晴）午前10時より現地見学会を行う。約40名程度の参加者があり、2時間程度で終了する。

9月15日（晴）住居跡は埋土上に築造されているため、住居跡の下層の調査を行う。

9月17日（曇）住居跡下層の調査を終了する。調査後の全景写真を撮った後、片づけをして調査を終了する。

第1図　邑南町域と遺跡位置図

Ⅱ．遺跡の位置と環境

島根県邑智郡邑南町は、平成16年10月１日に旧羽須美村、瑞穂町、石見町の３町村が合併し誕生した町で、島根県のほぼ中央部の邑智郡南部に位置する。南西には中国脊梁山地が連なり、山地を境として広島県と接している。瑞穂地域のほぼ中央を出羽川が東流し、その出羽川に向かって亀谷川、岩屋川、円ノ板川などの支流が注いでいる。出羽川とその支流の流域には、沖積地や河岸段丘が形成されており、特に邑南町田所から出羽にかけてはかなり広い出羽盆地が発達している。今回調査を行った遺跡はいずれも出羽盆地の南側の河岸段丘上で、町道小河内淀原線の沿線に所在する。

今回調査を行った４遺跡へは、邑南町役場瑞穂支所（旧瑞穂町役場）から県道を東に約１km進み、島根おおち農協出羽事務所先の四叉路を右折し、さらに約500m進むと左手に出羽代官所跡が見えてくる。さらに出羽代官所跡入り口の三叉路を右折し、町道小河内淀原線を約300m西進した所に福音寺遺跡、そこからさらに160m西進したところに高見屋横瓦窯跡がある。なお、風呂ノ上遺跡へは、出羽代官所跡入り口から徒歩で北西に約50m進むと到着できる。

邑南町では約950ヵ所以上の遺跡が確認されている。その内約600箇所が瑞穂地区に所在し、横道遺跡をはじめとして旧石器時代から歴史時代にいたる幅広い時代の遺跡の存在が知られている。

旧石器時代の遺跡は、横道遺跡（高見）[1]、坂根谷遺跡（高見）[2]、荒槇遺跡（岩屋）[3]及び堀田上遺跡（市木）[4]の４ヶ所が知られており、約２万年以上前から瑞穂地域に人々が生活し始めたことを物語っている。

続く縄文時代の遺跡としては、横道遺跡、長尾原遺跡（下亀谷・淀原）、大畑遺跡（大草）及び大宇根遺跡（伏谷）[5]が以前から知られていた。近年行われた中国横断自動車道広島浜田線建設に伴う発掘調査により郷路橋遺跡（市木）[6]、今佐屋山遺跡（市木）[7]、堀田上遺跡[8]、道城遺跡（上亀谷）[9]、野田西遺跡（上亀谷）[10]、順庵原遺跡（上亀谷・下亀谷）[11]、沢陸遺跡（淀原）[12]、川ノ免遺跡（山田）[13]及び坂根谷遺跡[14]の存在が明らかになった。

ほとんどの遺跡は出土遺物から早期のものと思われるが、郷路橋遺跡では前期のものとみられるトチの実の貯蔵穴や晩期の住居状の遺構が検出されたほか、早期、前期、後期及び晩期の土器が出土している。

弥生時代になると遺跡数も増え、堀田上遺跡、牛塚原遺跡（上亀谷）、野田西遺跡、順庵原遺跡、長尾原遺跡、淀原遺跡（淀原）、沢陸遺跡、川ノ免遺跡及び石堂遺跡（和田）等の遺跡がある。

堀田上遺跡、牛塚原遺跡、順庵原遺跡及び淀原遺跡からは弥生時代前期の土器が出土しており、山間地域でも弥生時代前期から農耕が始まっていたことを示している。弥生時代後半になると遺跡数も増加し、出土遺物も豊富になってくる。人口も増え、それを支える農耕も地域全体で広く行われていたと考えられる。こうして社会が安定し物質的に豊かになるに従い、弥生社会も階層分化し、共同体の首長墓と考えられる順庵原１号墓（下亀谷）や御華山墳墓（鱒渕）が築造された。このうち順庵原１号墓は、わが国初の四隅突出型墳丘墓の調査例となった[15]。

古墳時代の遺跡のうち、集落跡としては狼原遺跡（和田）、宇山遺跡（上原）、川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡、今佐屋山遺跡などがある。このうち、1968年の長尾原遺跡の調査では竪穴住

居跡や土坑墓が検出され、さらに鉄に関する遺構が発見された[17]。また、1989年に調査された今佐屋山遺跡からも竪穴住居跡と製鉄遺跡がみつかっており[18]、製鉄・鍛冶が古墳時代後半には始まっていたことを示している。

古墳や古墳群は20ヶ所以上確認されているが、その大部分は終末期に築造された小円墳と横穴である。前半期の古墳と思われるものには段ノ原古墳（高見）、坂根谷古墳群、淀田古墳群（三日市）及び御華山古墳群（鱒渕）がある。

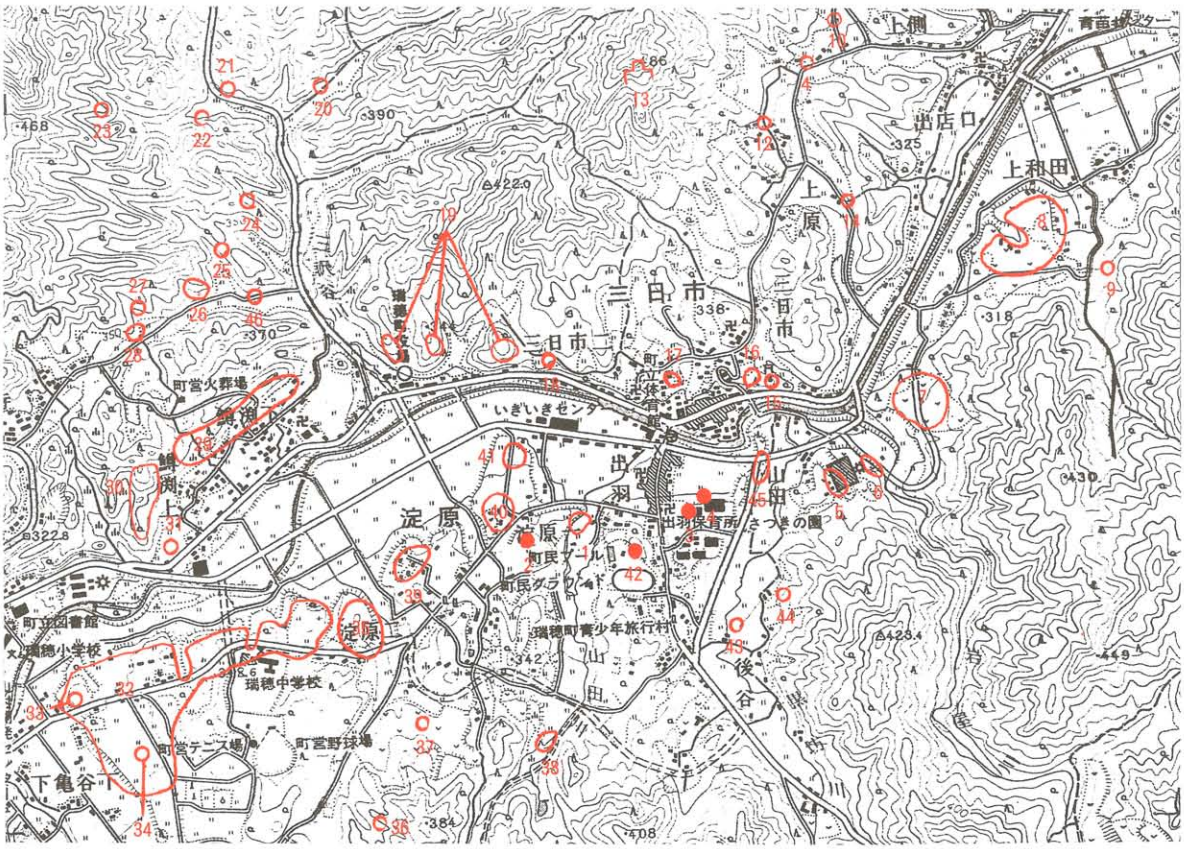
奈良時代の遺跡のうち、発掘調査により住居跡が検出されたものに川ノ免遺跡[19]、野田西遺跡[20]及び大金谷遺跡[21]がある。検出した住居跡のほとんどに煙道を備えたつくり付けのカマドが設けられている。このほか、古墳時代から奈良、平安時代にわたる須恵器の窯跡も数多く確認されている。久永古窯跡群はその代表的な遺跡で、島根県内有数の須恵器産地であったといえる。

中近世になると、山城や砦跡、そして多くの製鉄遺跡が確認されている。なかでも鎌倉時代に富永（出羽）氏が築城されたと伝えられ、出羽盆地を北から見おろす二ッ山城は規模、構造とも県内屈指の山城跡である。

また、中近世の製鉄遺跡は300ヶ所近くが確認され、製鉄が盛んに行われていたことをあらわしている。

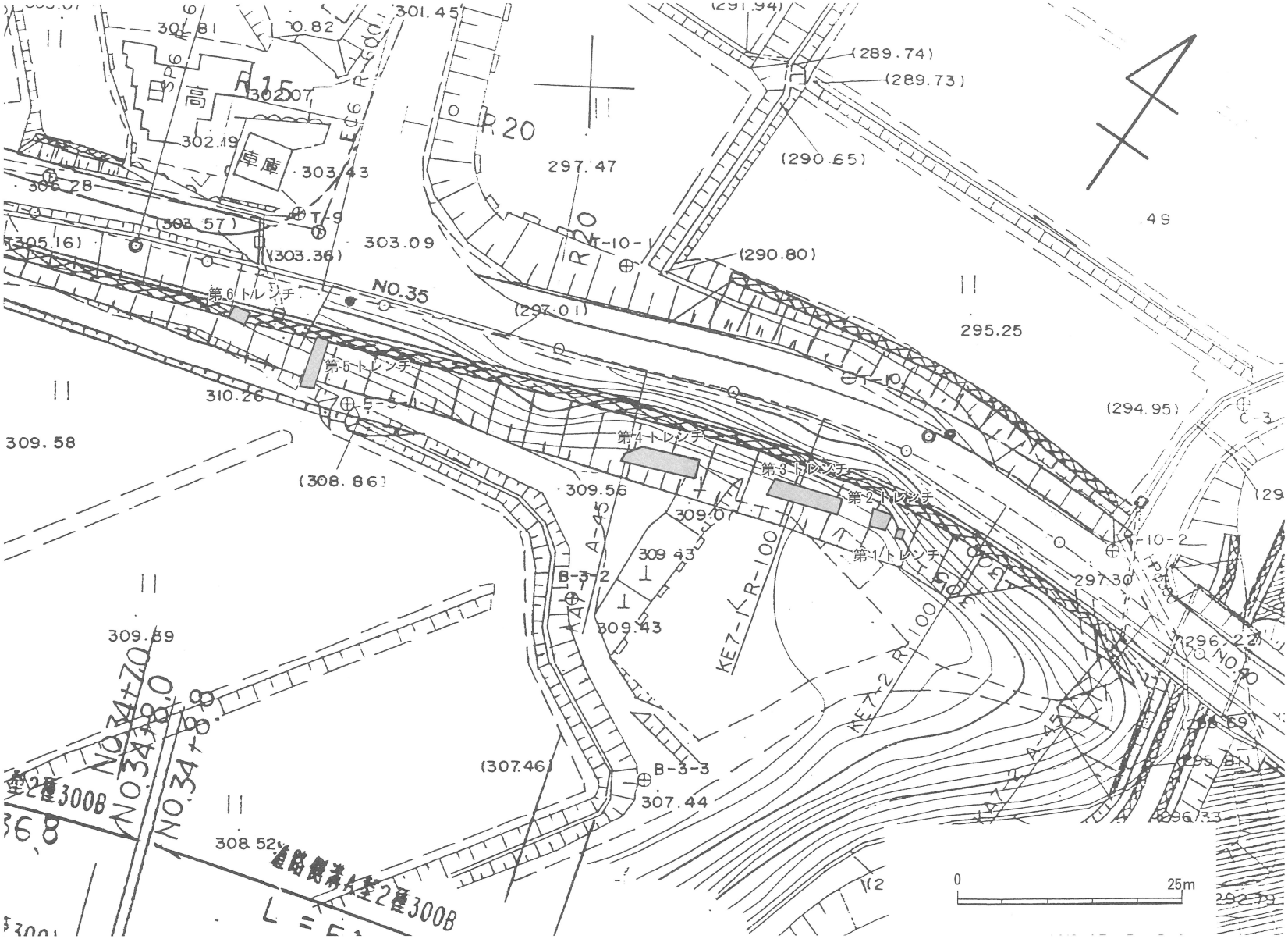
註

(1) 河瀬正利『横道遺跡－詳細分布調査』瑞穂町教育委員会　1983年
(2) 『坂根谷遺跡発掘調査報告書』瑞穂町教育委員会
(3) 吉川　正「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集　瑞穂町教育委員会　1976年
(4) 島根県教育委員会『主要地方道浜田八重可部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』1991年3月
(5) (3)に同じ
(6) 島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』1991年3月
(7) 島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』1991年3月
(8) (4)に同じ
(9) 瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概要』1995年3月
(10) (9)に同じ
(11) 瑞穂町教育委員会『順庵原遺跡発掘調査概要書』1995年9月
(12) 瑞穂町教育委員会『沢陸遺跡発掘調査報告書』1998年10月
(13) 瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』1996年3月
(14) (2)に同じ
(15) 東森市良『四隅突出型墳丘墓』ニューサイエンス社　1985年
(16) 瑞穂町教育委員会『御華山彌生式墳墓調査概要』1969年2月
(17) 島根県川本農林土木事務所『農面道新設に伴う長尾原遺跡及長尾原一号墳調査概要』1969年2月
(18) (7)に同じ
(19) (13)に同じ
(20) (9)に同じ
(21) (9)に同じ



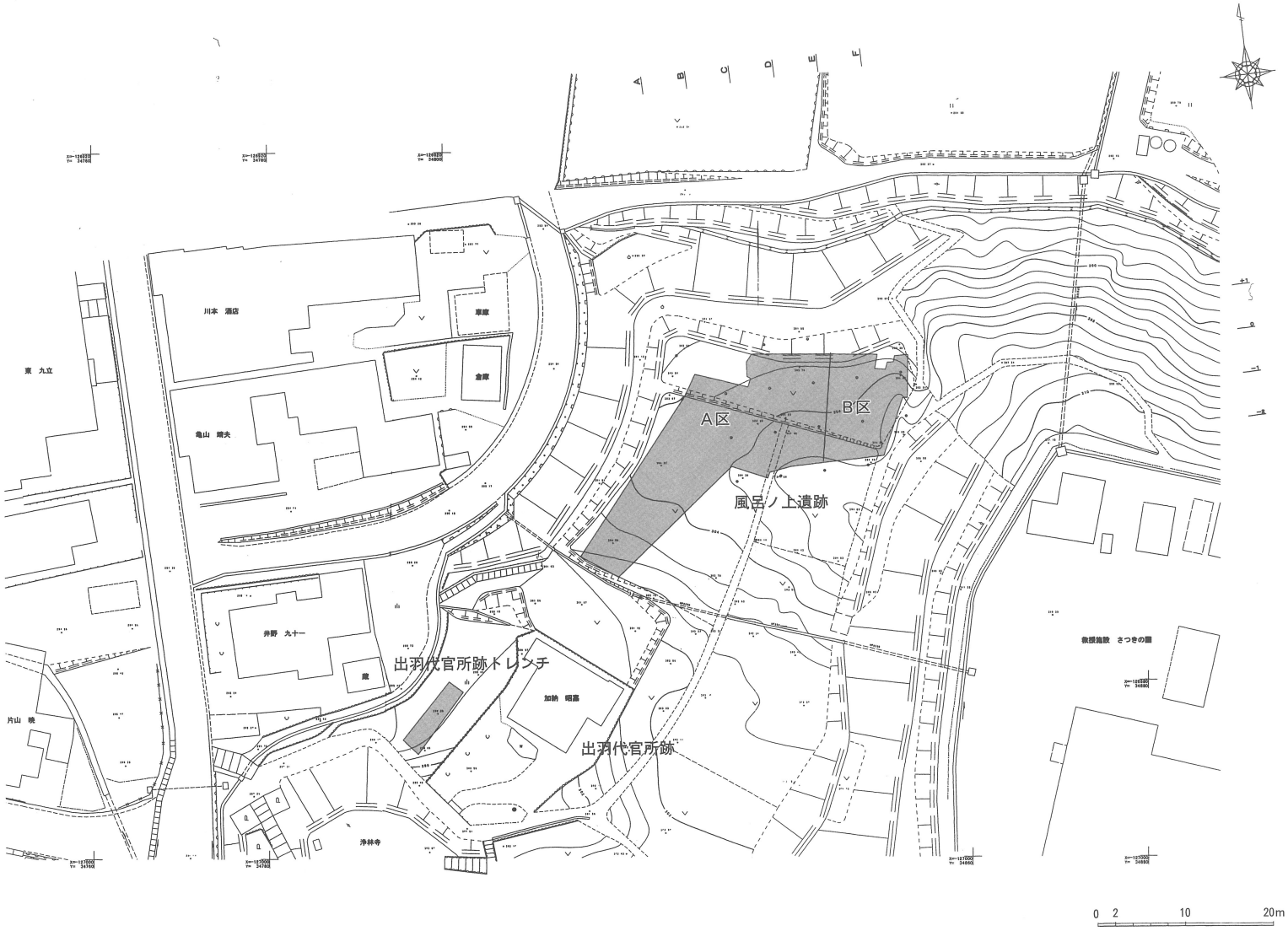
第２図　福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡・風呂ノ上遺跡付近遺跡分布図

1．福音寺遺跡
2．高見屋横瓦窯跡
3．出羽代官所跡
4．風呂ノ上遺跡
5．川ノ免遺跡
6．滑遺跡
7．狼原遺跡
8．野田原遺跡
9．長畑古墳
10. 鉄穴原鈩跡
11. 宇山Ａ遺跡
12. 宇山窯跡
13. 毛城跡
14. 宇山Ｂ遺跡
15. 七神社石棺墓群
16. 宮ヶ谷遺跡
17. 崇聖寺原遺跡
18. 蛇喰遺跡
19. 淀田古墳群
20. 上菅窯跡
21. 定入遺跡
22. 定入窯跡
23. 桜ヶ谷窯跡
24. カニヶ迫遺跡
25. 馬場ヶ谷窯跡
26. 馬場ヶ谷Ｂ遺跡
27. 清水ヶ尻窯跡
28. 清水ヶ尻遺跡
29. 鱒渕古墳群
30. 御華山古墳群
31. 竹前遺跡
32. 長尾原遺跡
33. 長尾原Ａ古墳
34. 長尾原Ｂ古墳
35. 若林遺跡
36. 江迫窯跡
37. 江迫横穴群
38. 沢陸遺跡
39. 淀原遺跡
40. オセド遺跡
41. 小絵堂遺跡
42. 旅行村グラウンド窯跡
43. 鉄穴内遺跡
44. 小谷遺跡
45. 慶光坊跡
46. 馬場ヶ谷Ａ遺跡



第３図　福音寺遺跡地形測量図

第４図　高見屋横瓦窯跡地形測量図



第５図　出羽代官所跡・風呂ノ上遺跡地形測量図

Ⅲ．調査の概要

1、福音寺遺跡の調査

福音寺遺跡は邑南町淀原地内の河岸段丘上に所在する遺跡である。地元の人によると福音寺という寺があったとの伝承があり、周辺に五輪塔が数基点在している。また耕作により土器片が出土したことなどから、福音寺遺跡として周知されてきた。今回の発掘調査では、道路建設予定地内にトレンチを６ヶ所設定し調査を実施した。

調 査 地　　邑智郡邑南町632番地２、同899番地

調査期間　　平成14年７月24日～平成15年１月17日

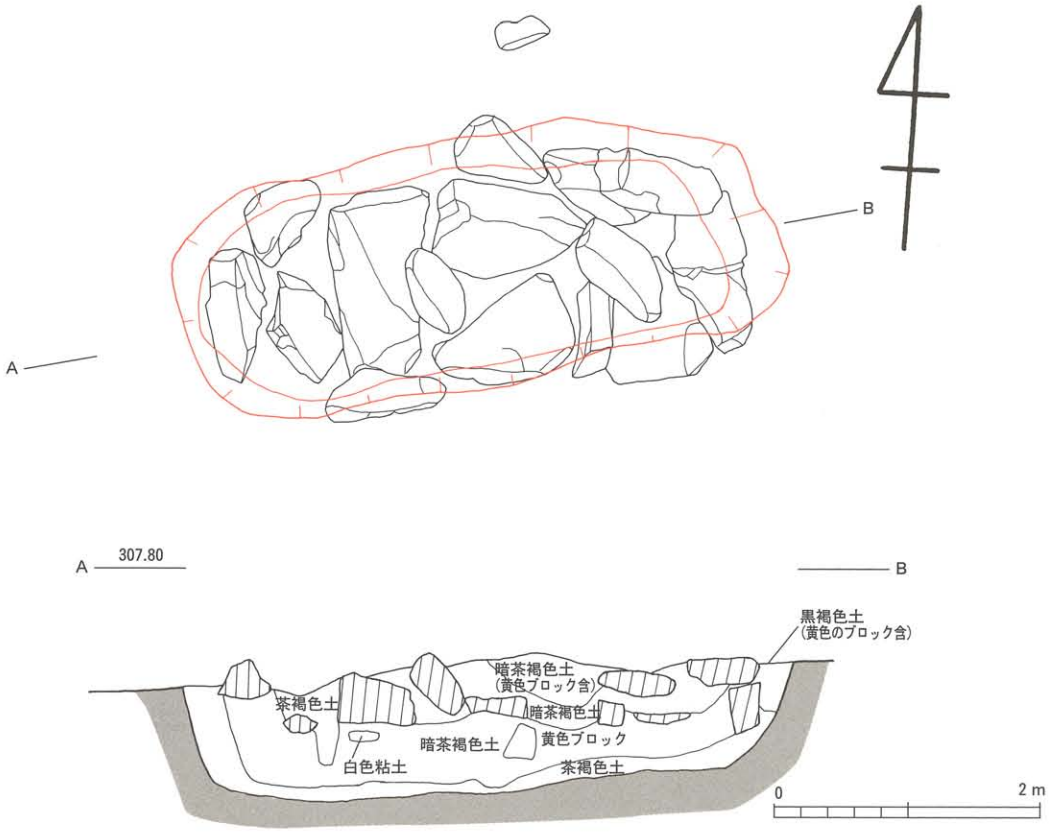
調査面積　　55㎡

（１）調査の概要（第３図、図版第１ａ.ｂ）

道路建設予定地内の調査区は段丘縁辺部に位置し、西側は圃場整備により地形が大幅に改変されているが、東側の林地や畑地については旧地形が残っていると想定されたので、東側を中心に６箇所のトレンチを設定し調査を実施した。

ａ．遺構（第6図、図版第１ｃ～図版第２ｃ）

第４トレンチで石組み遺構１基を検出した。石組の規模は長軸2.3m、短軸1.0mで、平面形は長方形を呈し、主軸はＮ－75°－Ｅを指している。使用されている石材は17個で、割り石が８個、河



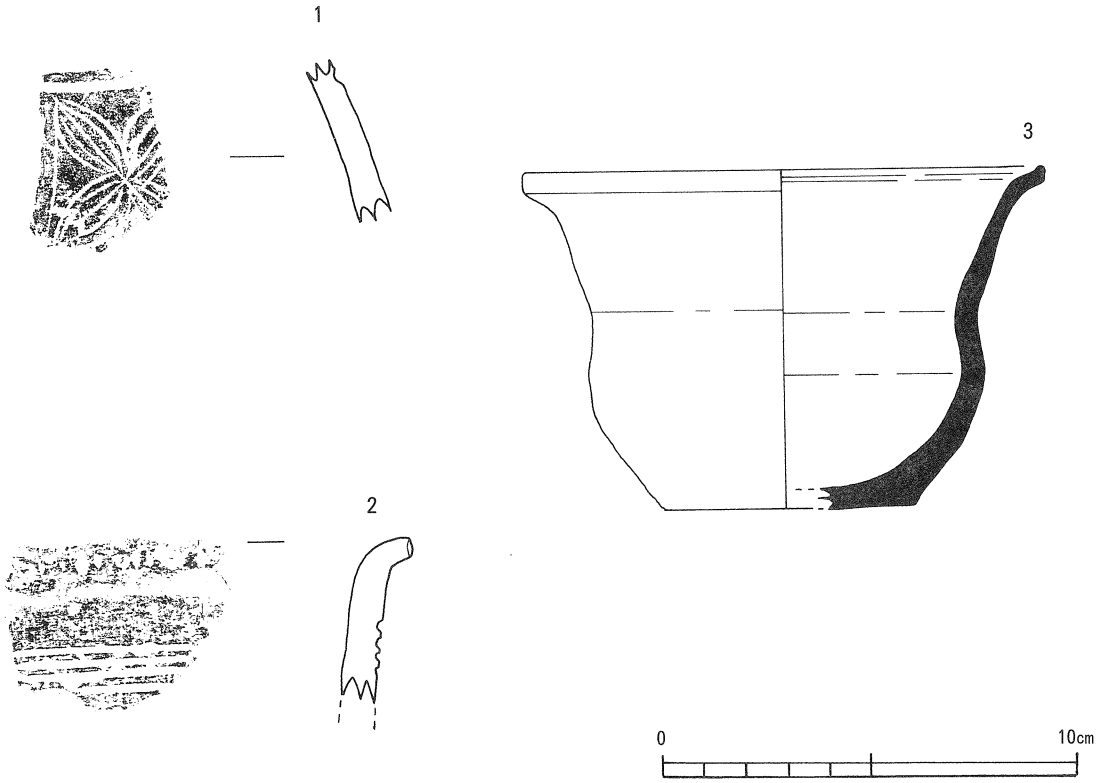
第６図　石組遺構実測図

原石が９個である。石材の大きさは70×35㎝大のものから、35×20㎝大まで様々であるが、40×20～30㎝大のものが最も多く使用されている。石組の下からはやや不定形な隅丸長方形の土坑を検出した。土坑の規模は長軸2.25m、短軸95㎝、深さ40～25㎝である。石組みや土坑の中から遺物は出土していない。

ｂ．出土遺物（第7図、図版第３ａ～図版第４ａ）

石組遺構に伴う遺物は出土していないが、埋土や包含層から少量の遺物が出土した。

１、2は第４トレンチから出土した弥生時代前期の土器である。1は壺の胴部上半の小片で、木葉文土器である。方形の区画の中にヘラ状工具で有軸の木葉文が丁寧に描かれている。内面の調整は風化により不明であるがヘラ磨きか。2は甕で、口縁端部が逆「L」字形を呈し、刻目文を施す。外面頚部に４条の沈線を施すが、内面は風化により調整不明。３は第４トレンチから出土した須恵器の小形の広口壺で、口縁径12.6㎝、器高8.3㎝、底径5.2㎝である。胴部中央付近から外反し口縁端部が垂直に立つ。内外面とも回転ナデ調整で、底部はヘラ切である。その他埋土中から弥生土器小片、須恵器小片、黒曜石（図版第３ｃ）などとともに鉄滓が17点、炉壁片３点（図版第４a）が出土した。また、第３トレンチから青磁の小片１点出土した（図版第３ｃ）。小片で図化できないが淡緑色の釉薬が厚く施釉され全体に貫入が認められる。胎土は密で白色を呈し清良である。



第７図　福音寺遺跡出土遺物実測図

2．高見屋横瓦窯跡の調査

福音寺遺跡の約160m南西に位置する瓦窯跡である。大正～昭和初期に操業された窯跡と伝えられ、瓦片や煉瓦などが出土している。調査は長さ25m幅２mのトレンチを設定し実施した。

調 査 地　　邑智郡邑南町淀原591番地1外

調査期間　　平成15年10月６日～10月14日

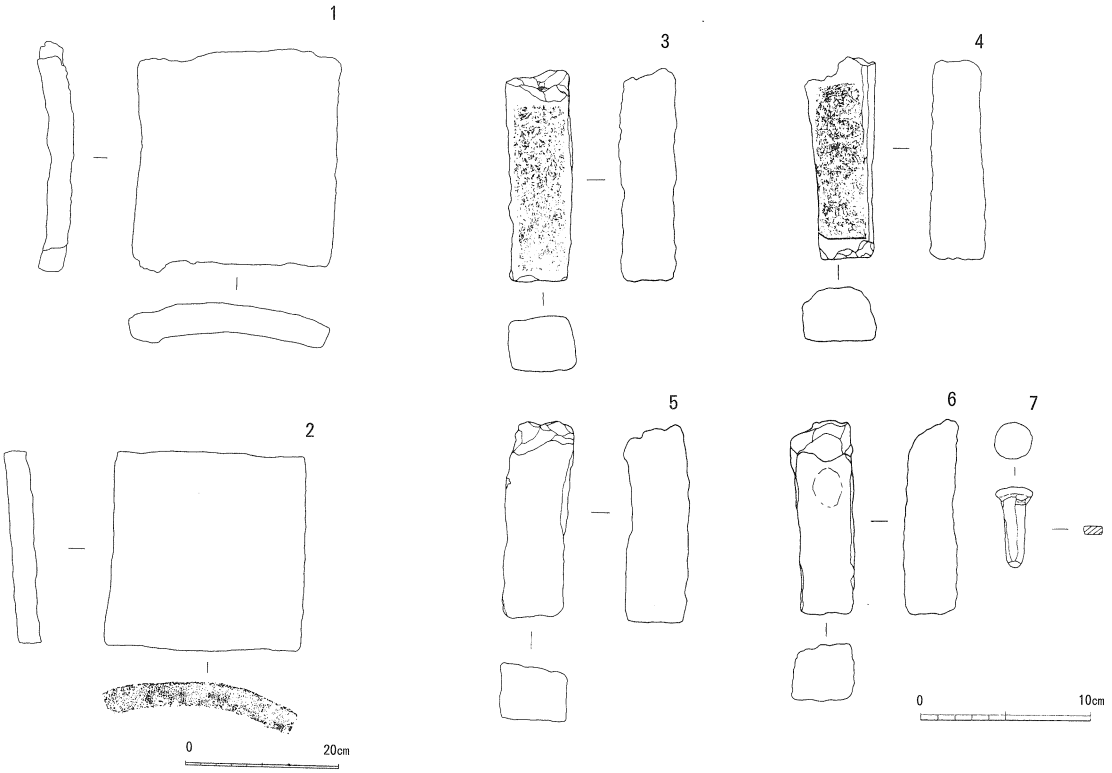
調査面積　　50㎡

（１）調査の概要（第４図、図版第４ｂ～図版第６ａ）

調査は町道に接している斜面とその上の平坦部で実施した。層序は耕作土、茶褐色土、地山（粘性土）で、地山までの深さは約30cmである。平坦部や斜面からは遺構は検出されていないが、斜面下端部で窯に使用された煉瓦の一部や、少量の瓦片やモミツチなどが出土した。出土場所は操業時の物原跡ではなく、後世斜面尻に土留めのために置かれたものである。これらのことから、遺構は昭和40年代の町道拡幅工事の際完全に破壊されたものと思われる。

ａ．出土遺物（第８図、図版第６ｂ～図版第７ａ）

遺物は斜面尻に土留めとして積まれたもの以外出土しなかった。出土遺物は、窯に燃焼材の薪を投入した際、瓦に当たって破損するのを防止するため、製品の前に立てられたヒダテ、煉瓦、瓦片、瓦を焼成する際焼成台と瓦の溶着を防ぐため使用されるモミツチ、瓦どうしの溶着を防ぐためのハセなどが出土した。１、２はヒダテで、大きさは１が28.5×26.3cm、厚さ3.5cm。2は25.2×25.4cm、厚さ3.2ｃｍである。３、４、５、６はモミツチで、残存長11.5～12.0cm、断面は3.2～3.4cm×3.8～4.4cmで長方形を呈す。３、４は焼成時の瓦の溶着を防ぐため付着させた籾殻の圧痕が認められる。７はハセで長さ4.8cm、断面は1.1×0.5cmの長方形で上部は傘状に扁平に広がる。



第８図　高見屋横瓦窯跡出土遺物実測図

3．出羽代官所跡の調査

出羽代官所は浜田藩により17世紀中ごろ設けられ、19世紀中ごろ廃止されるまで浜田藩出羽組を統治していた。調査は代官所入口の門があった場所付近と推定される平坦面に長さ8.7m、幅２m のトレンチを設定し実施した。

調 査 地　　邑智郡邑南町出羽450番地外

調査期間　　平成16年７月27日～30日

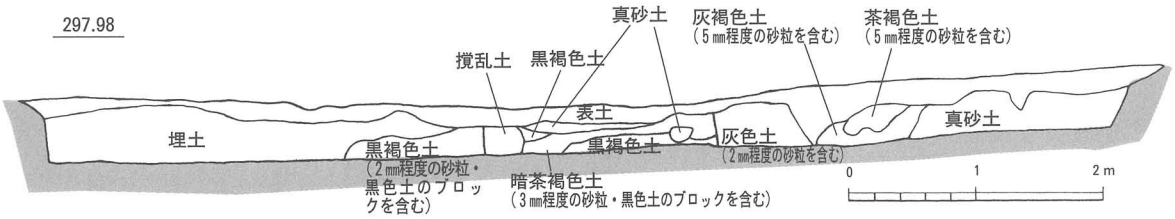
調査面積　　21㎡

（１）調査の概要（第５、９図、図版第７ｂ～図版第８ｃ）

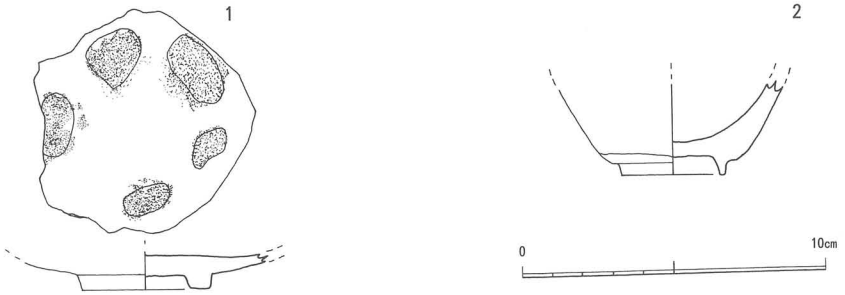
調査地は近年まで民家があった場所で、土層に撹乱が認められた。調査により代官所に関する遺構は検出されなかったが、遺物は主に暗茶褐色土、黒褐色土から出土した。

ａ．出土遺物（第10、11図、図版第９ａ、ｂ）

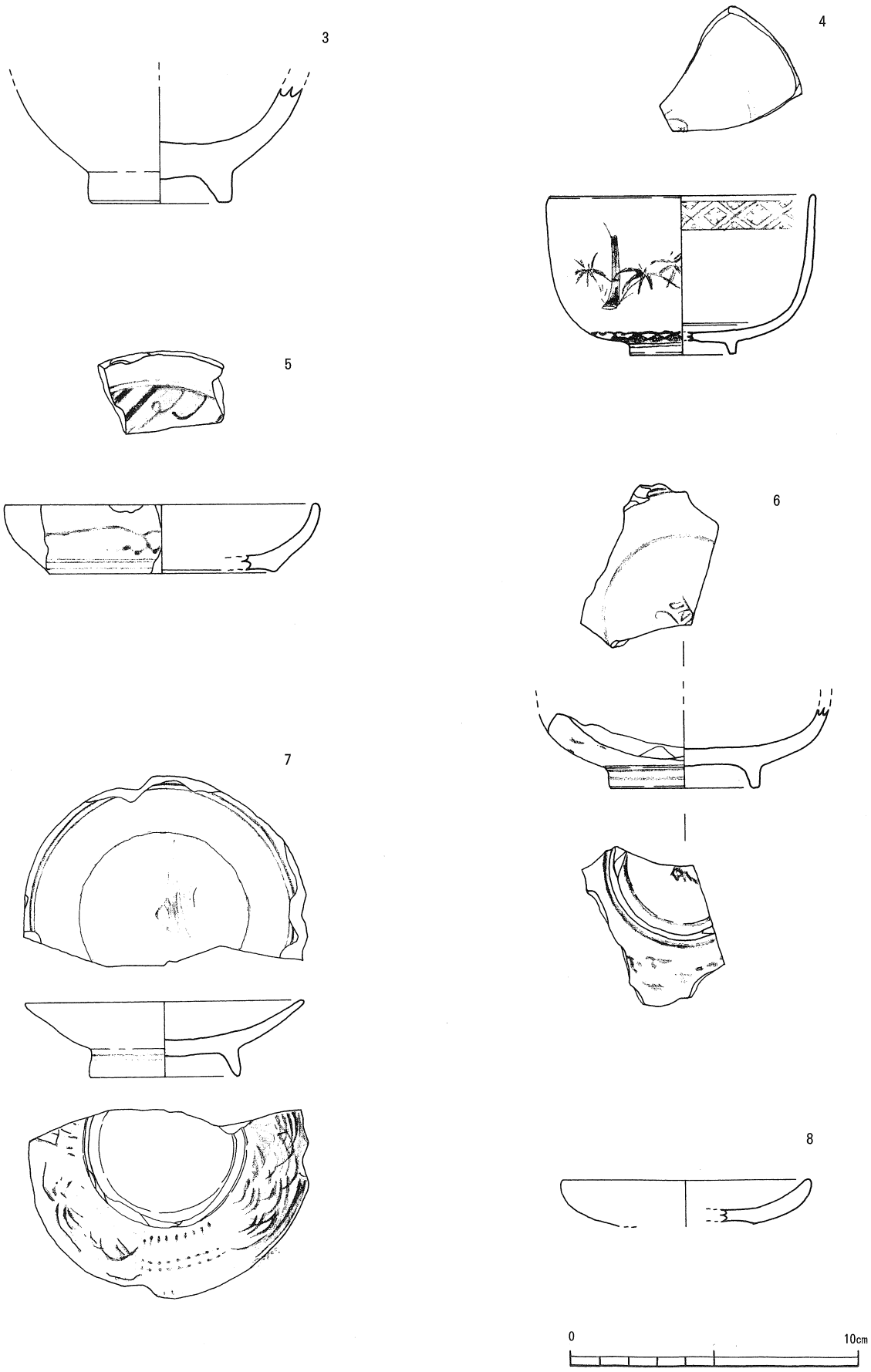
１は肥前系磁器の皿で薄く釉薬がかかり淡いオリーブ色を呈している。見込みに５個、高台に３個（４個か）砂目が溶着している。２は肥前系（唐津）陶器の天目茶碗で高台脇に釉薬が厚く垂れている。３は肥前系陶器の碗で、見込みや胴から腰にかけて鉄釉により施釉されているが、高台際から高台にかけては無釉である。４、５、６、７は肥前系磁器である。４は染付碗で、口径9.1㎝、器高5.5㎝で、見込口縁内部に四方襷文が巡り、底部に２条の圏線、中央部にも題材不明の文様が描かれている。外面は竹文と高台脇に文様帯、高台に２条の圏線が染付けられている。５は染付皿で見込に２条の圏線と題材不明の文様が、外面には蔓草状の文様と３条の圏線が巡る。高台内は無施釉である。６は染付碗で、見込に３条の圏線と中央部に題材不明の文様が描かれている。外面は高台脇に鳥状文様と高台に３条の圏線、高台内に題材不明の文様が描かれている。７は口径9.6㎝の広東碗の蓋で、外面は竹垣文と笹文、輪状のつまみに２条の圏線、内面は３条の圏線と中央部に題材不明の文様が描かれている。８は肥前系陶器の小皿で、鉄釉で施釉されている。１～３は17世紀、４～８は18～19世紀の物であろう。



第９図　出羽代官所跡トレンチ実測図



第10図　トレンチ出土遺物実測図（１）



第11図　トレンチ出土遺物実測図（２）

4．風呂ノ上遺跡の調査

風呂の上遺跡は出羽代官所跡の北東約60mの丘陵の先端部に位置する。本遺跡は周知の遺跡ではないが、今回の工事に先立ち、試掘調査でその存在が明らかとなり、工事で消滅する範囲を調査した。

調 査 地　　邑智郡邑南町出羽332番地外

調査期間　　平成16年6月9日～9月17日

調査面積　　397㎡

(1)調査の概要(第5図、図版第9c～図版第10a)

調査により弥生時代後期の竪穴住居跡1棟、住居跡に伴う溝状遺構2、時期不明の溝状遺構1、土坑4を検出した。

a．竪穴住居跡(第12,13図、図版第10b～図版第11b)

調査区中央部北側で検出した。遺構南側は比較的遺存状態も良く、残存壁高51㎝で一部壁溝も認められるが、遺構北側は後世の耕地化により削平され消滅していた。住居跡は復元直径約6mの円形住居跡で、床面ほぼ中央に炉と推定されるピットを設けており、ピット内からは炭が検出された。住居跡は8本柱で、柱穴の径は30～40㎝、深さはP1が17㎝、P2～P8が37～51㎝である。

b．竪穴住居跡床面から出土した遺物(第14図、図版第12c～図版第13c)

1、2は鼓形器台の器受部で、口縁は複合口縁状につくる。1は口径17.2㎝で無文、2は口径12.2㎝で口縁部に波状文を施している。3～7は弥生土器の甕、8、9は弥生土器の底部である。3は口径22.4㎝で僅かに外傾する複合口縁部と肩部に波状文を施している。4は口径17㎝で複合口縁部に2条の凹線文、頸部にヘラ状工具で斜行刺突文を施す。5は口径18.4㎝で外傾する複合口縁の口唇部に1条の凹線と口縁中央部から下端にかけて櫛歯状工具による平行沈線を施す。6は口径21.6㎝で外傾する複合口縁部はナデ調整で施文は無い。7は口径11.6㎝で、6同様無文の外傾する複合口縁を有する小形の甕である。8、9は底部で8は底径3.2㎝、9は底径2㎝である。時期は弥生時代後期前半(V－2)である。

c．溝状遺構1(第15図、図版第11c)

竪穴住居跡の南1.8mに位置し、平面形は弓状で長さ4.7m、幅1m、深さ6～20㎝である。

d．溝状遺構1から出土した土器(第16図、図版第14a)

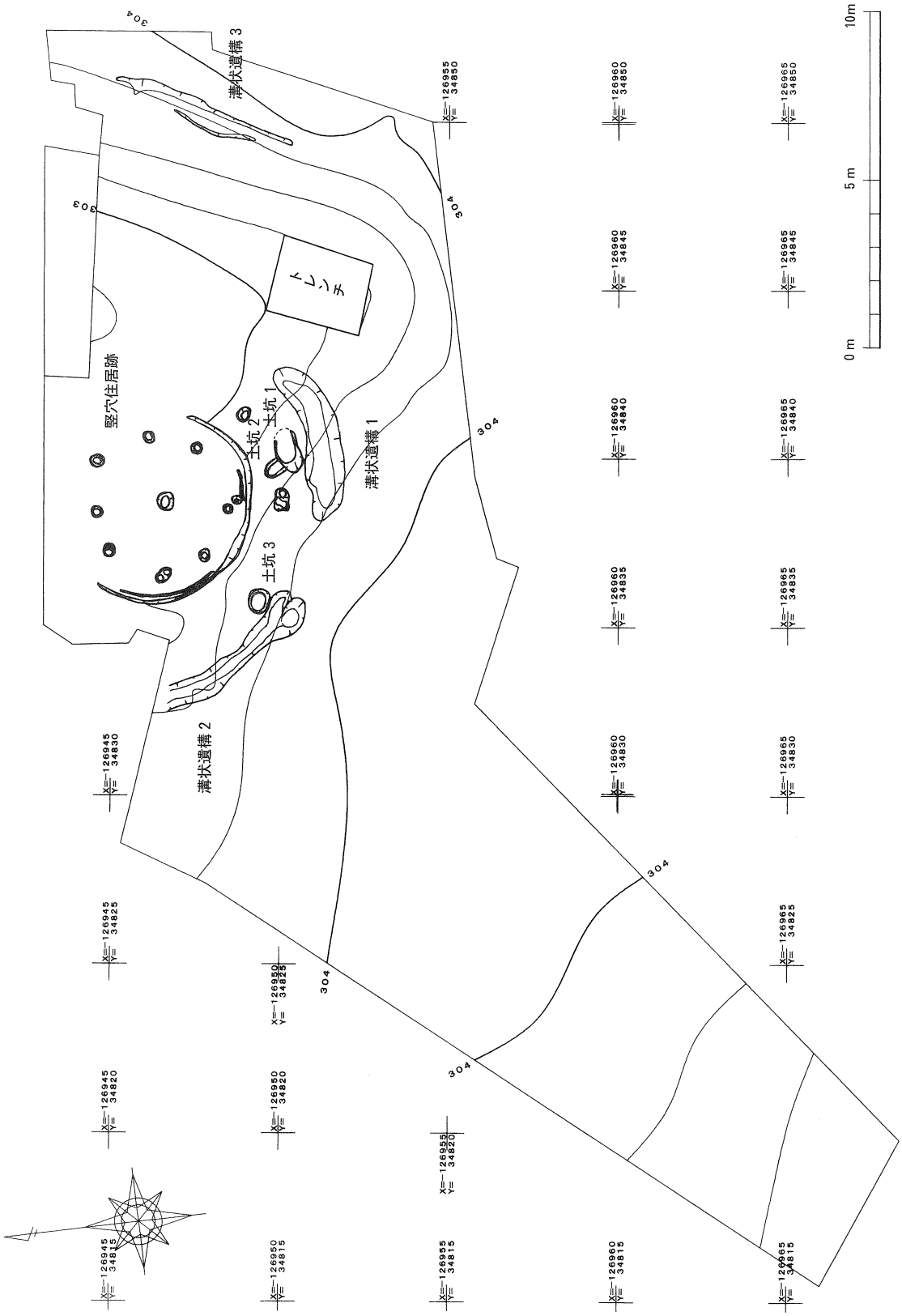
10は口径17.2㎝の弥生土器で、外傾する複合口縁外面に櫛歯状工具で12条の波状文を施し、頸部にも同様の波状文を施している。

e．溝状遺構2(第15図、図版第12a)

竪穴住居跡の南西2.2mに位置し、竪穴住居跡を囲むように掘られてている。遺構内から遺物は出土していない。検出された遺構は長さ4.9m、幅0.5～0.8m、深さ7～21㎝である。

f．溝状遺構3(第15図、図版第12b)

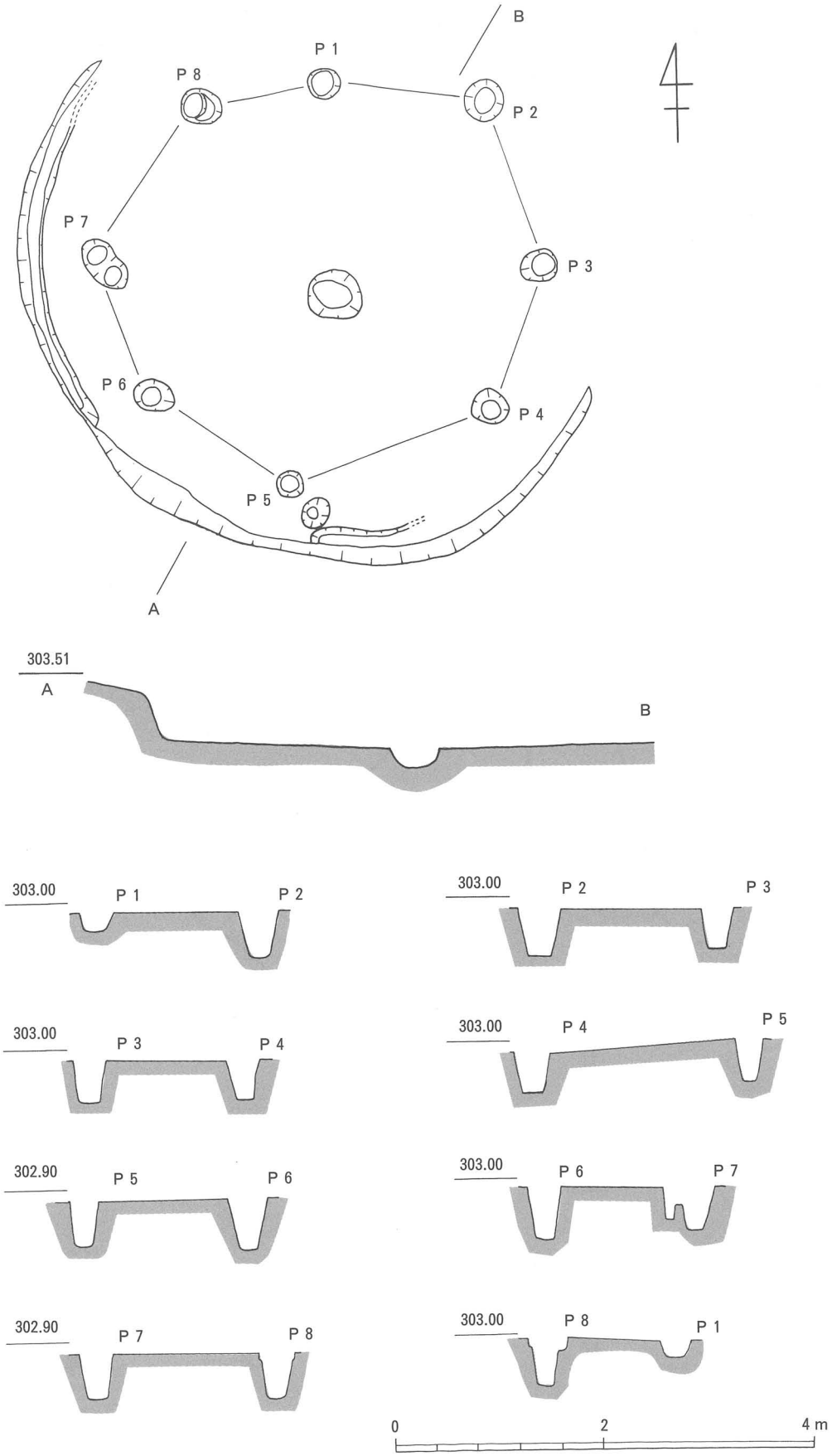
調査区東端に位置し、竪穴住居跡からの距離は9mである。溝は南北に伸びるが、西側の壁は僅かしか残っていない。残存する溝の規模は長さ約5.5m、幅40～65㎝、深さ14㎝で遺物は出土していない。時期、遺構の性格は不明。



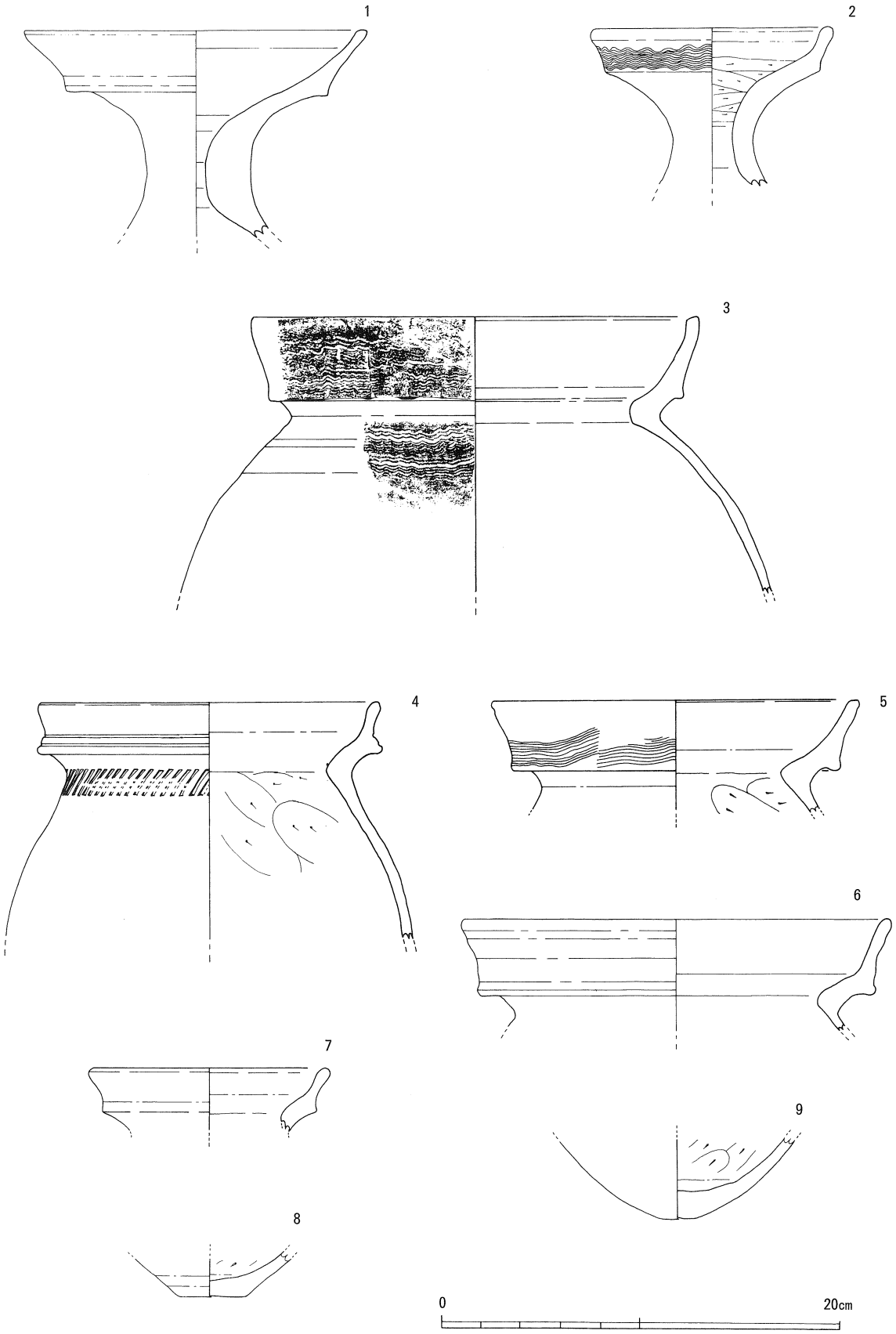
第12図　風呂ノ上遺跡発掘調査後地形測量図・遺構配置図

g．土坑１（第17図、図版第11ｃ）

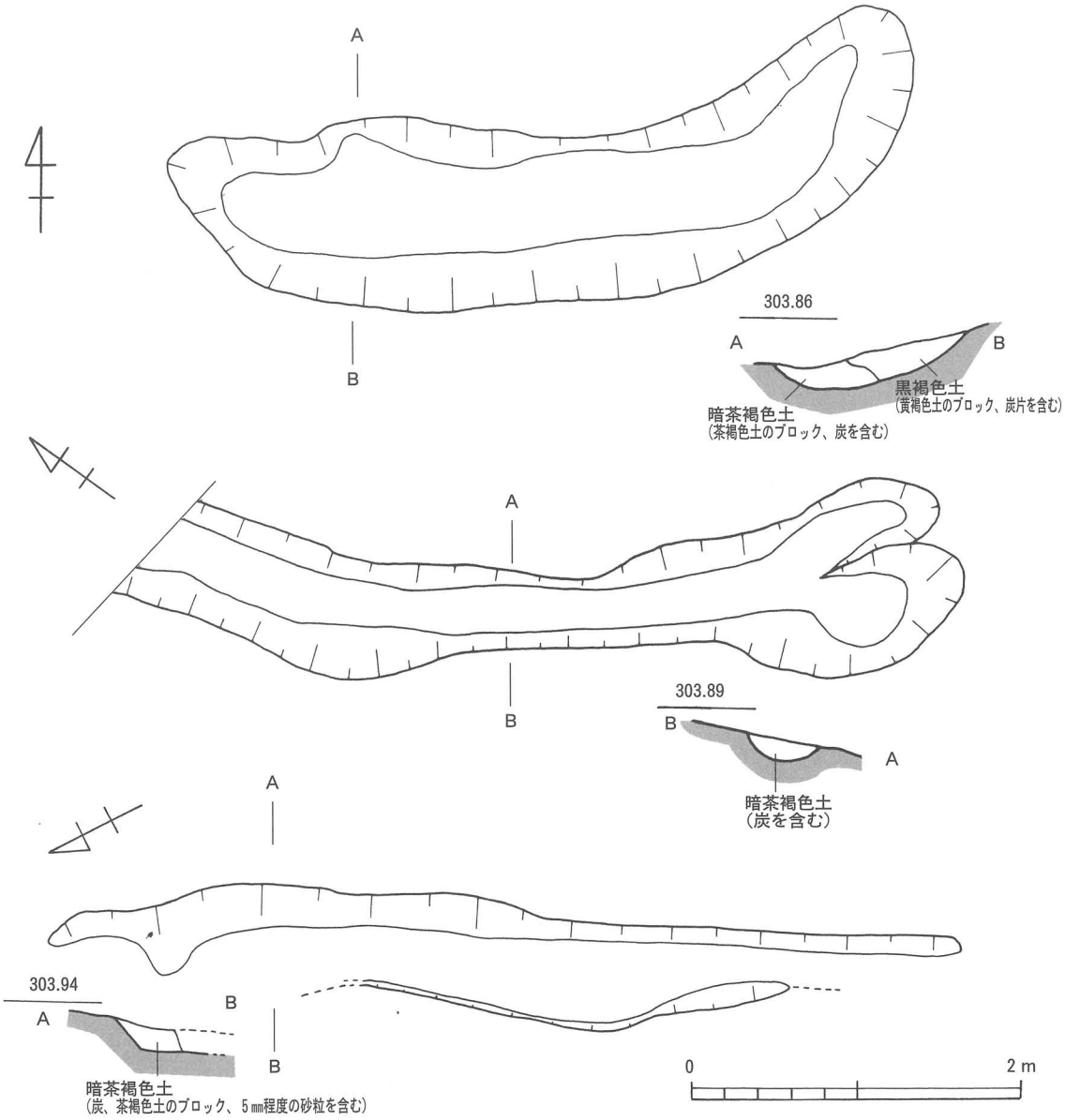
竪穴住居跡と溝状遺構１の間に位置する楕円状の土坑である。土坑東側は後世の削平により消滅しているが、復元規模は長軸1.5m、幅70cm、深さ33cmである。土坑内から遺物は出土していない。



第13図　竪穴住居跡実測図



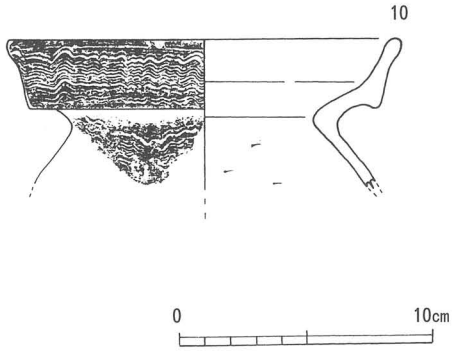
第14図　竪穴住居跡床面から出土した遺物実測図



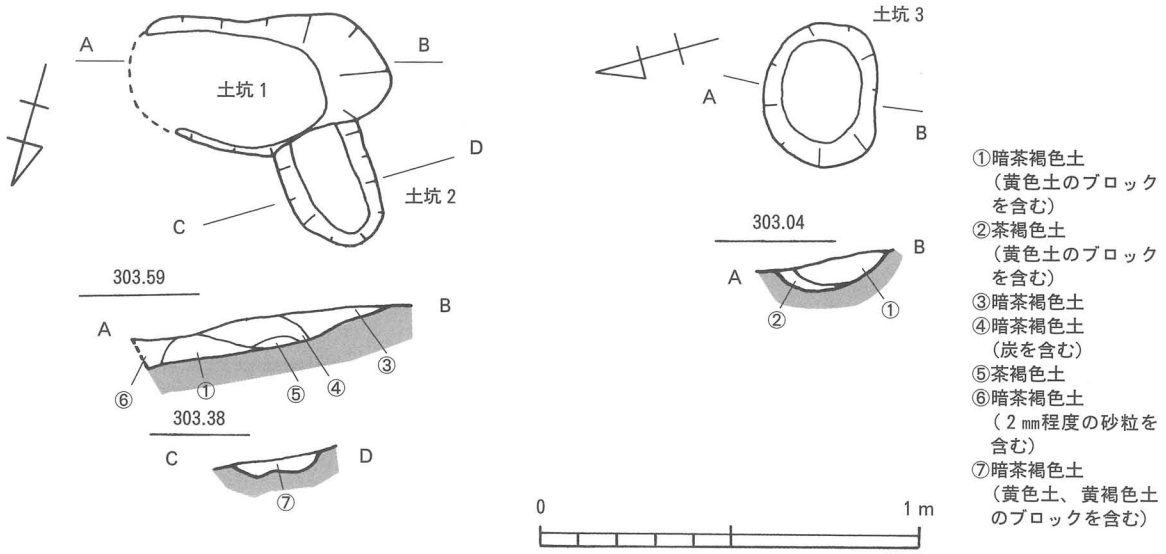
第15図　溝状遺構１・２・３実測図

h．土坑２（第17図、図版第11ｃ）

土坑１により約1/2が切られており、土坑１よりは時期は古いと考えられる。本来の規模は１ｍ程度と推定されるが、残存部分は長軸55㎝、幅45㎝、深さ９㎝である。土坑内から遺物は出土していない。



第16図　溝状遺構１出土遺物実測図



第17図　土坑1・2・3実測図

ｉ．土坑3（第17図、図版第12ａ）

溝状遺構2の端部に接して位置し、平面形は整った楕円形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸55㎝、深さ22㎝で、土坑内から遺物は出土していない。

（2）埋土や包含層から出土した遺物

ａ．縄文土器（第18図、図版第14ｂ）

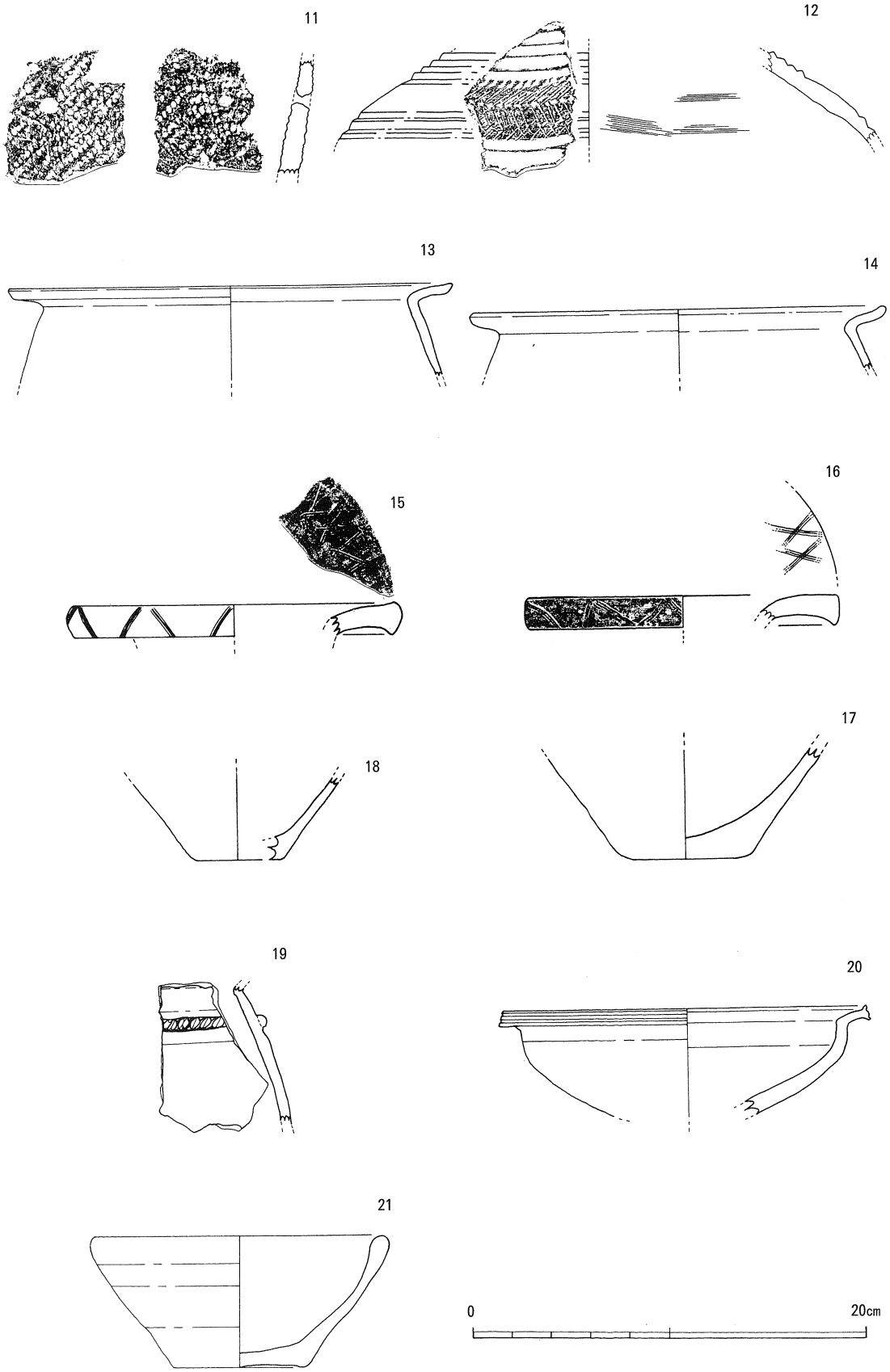
調査区内から1点出土した深鉢形土器で、器面内外全面に撚りがゆるく太い縄文を縦走させている。補修孔も1ヶ所認められる。縄文の特徴から船元系の土器と考えられる。時期は縄文時代中期前半。

ｂ．弥生土器（第18、19図、図版第14ｂ～図版第15ｂ）

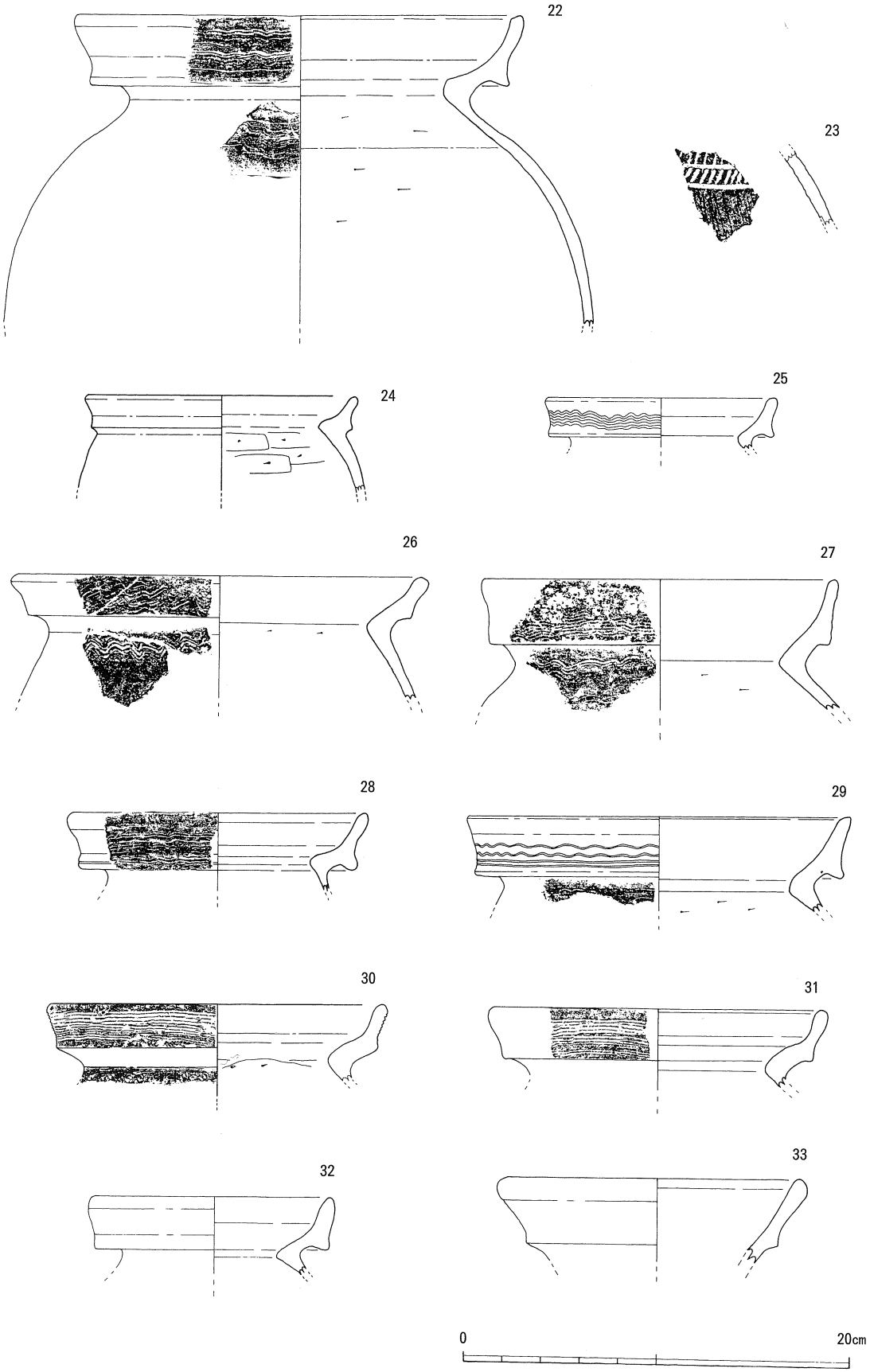
12は壺の胴部で、断面三角形の突帯を3条巡らし、突帯間に羽状文や斜行刺突文が描かれている。13、14は口縁端部が「逆L字」状に外反する甕で胎土は密で器壁も薄い。15、16は口縁が朝顔状に大きく開く広口壺で、口縁端部が上下に僅かに拡張し、内外面に斜格子文を施す。17、18は土器の底部、19は刻目突帯を有する甕で、突帯から上はナデ調整、突帯から下はハケ目調整である。20は口径18.5㎝の高坏で、口縁が「逆L字」状に外反し、口縁端部は上下に僅かに拡張し、2条の凹線文が巡る。21は口径14.4㎝の椀で、口縁端部が僅かに肥大する。22は口径23㎝の甕で、複合口縁部と頸部に崩れた波状文を巡らす。23は甕の頸部付近で、凹線間にヘラ状工具で斜行刺突文を施している。24～33は複合口縁の甕である。24、32、33は無文で、25～29は櫛歯状工具で崩れた波状文を巡らし、30、31は平行沈線を巡らす。時期は12が弥生時代前期（Ⅰ－2）、13～16、19が弥生時代中期（Ⅲ－1）、20が中期末～後期初頭（Ⅳ－2～Ⅴ－1）、17、18は土器の底部なので様式は不明だが、調整等から中期の範疇として問題ない。23は弥生時代後期（Ⅴ－1）、24～33はⅤ－2～Ⅴ－3である。

ｃ．須恵器（第20図、図版第15ｃ～図版第16ａ）

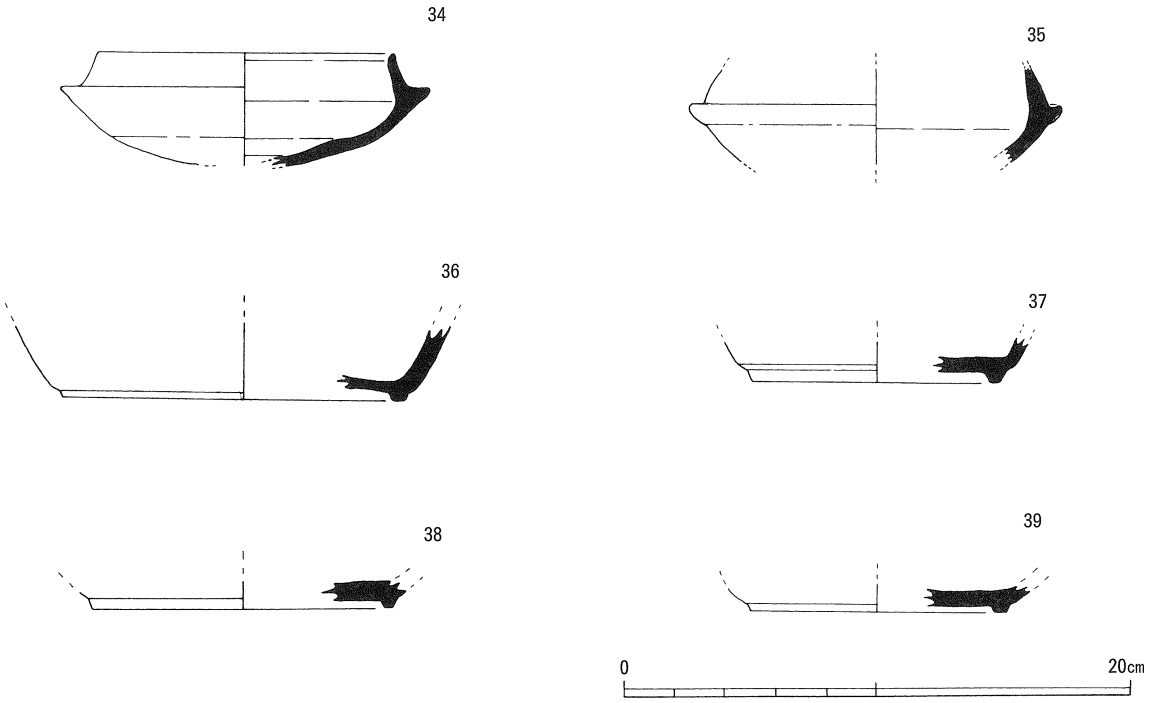
34、35は須恵器坏身で34は口径11.6㎝の須恵器坏身で、口唇部がやや内傾して立ち上がる。36～



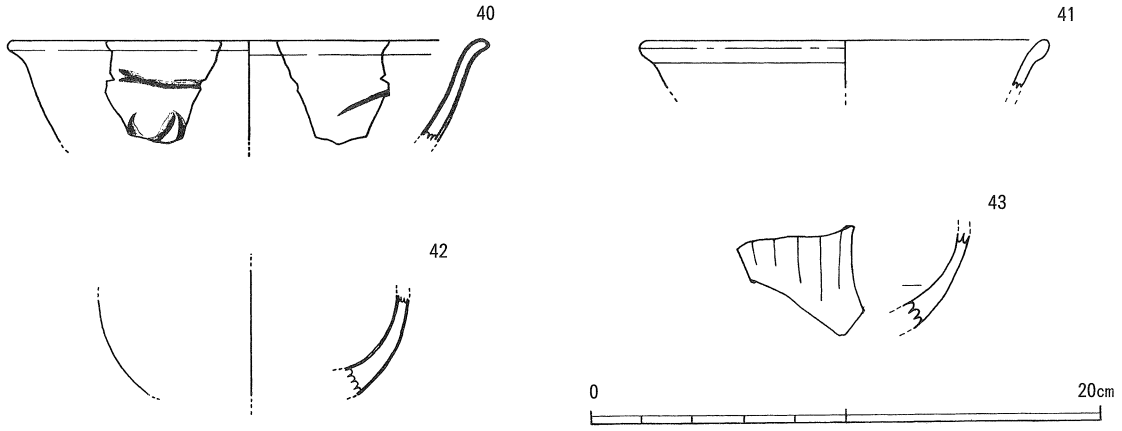
第18図　埋土や包含層から出土した遺物（縄文土器、弥生土器）実測図（1）



第19図　埋土や包含層から出土した遺物（弥生土器）実測図（2）



第20図　埋土や包含層から出土した遺物（須恵器）実測図（3）



第21図　埋土や包含層から出土した遺物（貿易磁器）実測図（4）

39は高台付坏で、高台はいずれも底部外縁につく。時期は34、35が5世紀後半、36～39が8世紀である。

d．貿易磁器（第21図、図版第16b）

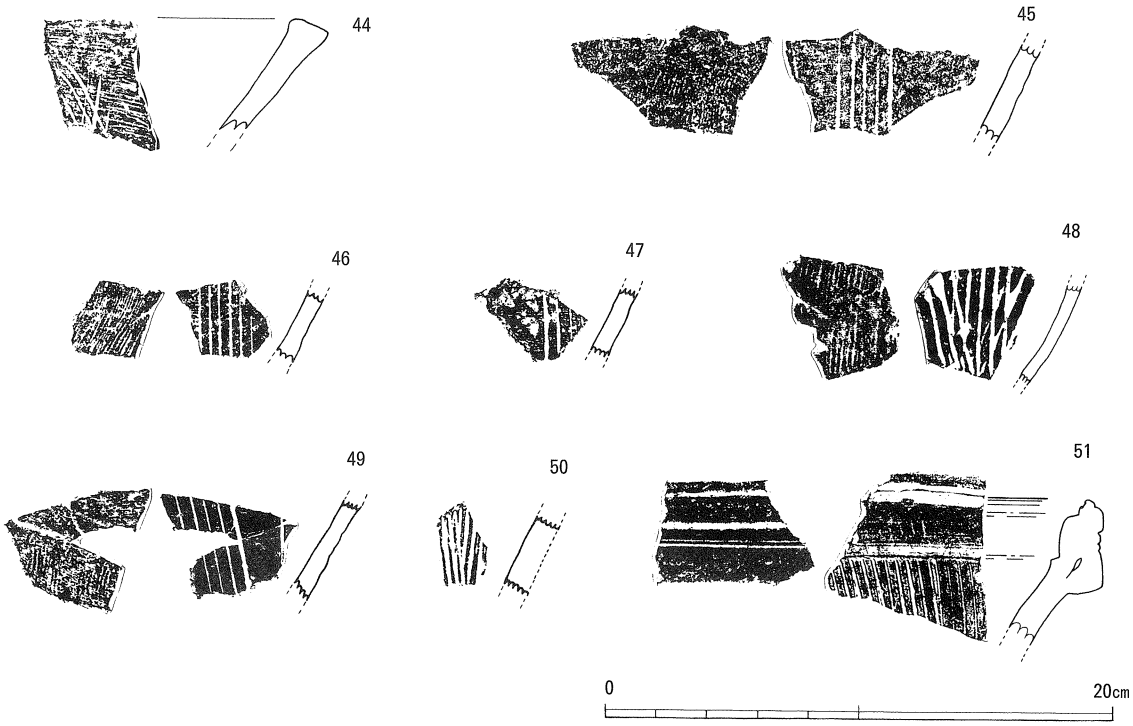
埋土から4点出土しているが、全て青磁片である。40は口径19cmで口縁が外反する碗である。器面には文様が陰刻され厚く釉薬が掛かる。41は口径16.2cmの玉縁の碗。42は碗の腰から高台脇にかけての部分、43は簡略化された連弁文を有する碗である。いずれも龍泉窯系の青磁碗で15～16世紀初頭のものと考えられる。

e．陶器（第22図、図版16ｂ）

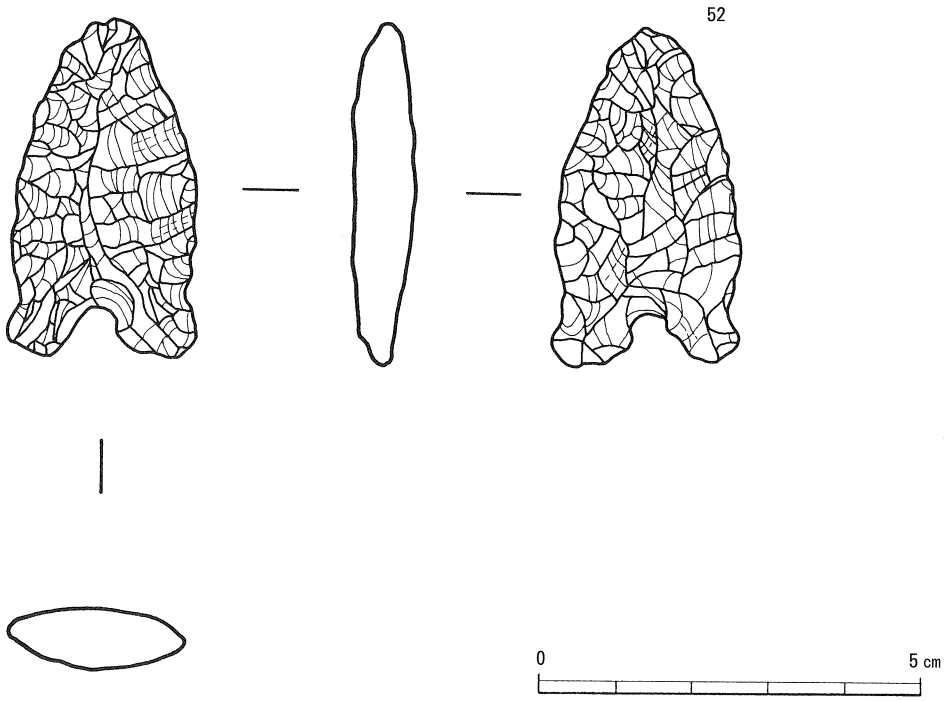
44～50は在地産と推測される擂鉢で時期は14～15世紀頃か。51は17世紀の備前焼擂鉢である。

f．石器（第23図、図版16ｃ）

52は埋土から出土した大型の石族で石材はチャート。凹基無茎式で、抉りが逆U字状を呈す。長さ4.5cm、幅2.4cm、厚さ0.8cm、重さ９gである。



第22図　埋土や包含層から出土した遺物（中世陶器）実測図（５）



第23図　埋土や包含層から出土した遺物（石器）実測図（６）

第１表　福音寺遺跡出土遺物観察表

挿図番号	図版番号	写真図版	遺物番号	出土位置	器種		寸法（cm）			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴
							口径	底径	器高			外面	内面	
7	3	a	1	暗茶褐色土層	弥生土器	壷	不明	不明	残4.0	密	良好	淡橙色	淡橙色	胴部にヘラ描き木葉文を巡らし、沈線により文様を区画している
7	3	a	2	茶褐色土層	弥生土器	甕	不明	不明	残3.9	1㎜程度の砂粒含む	やや甘い	淡橙色	淡橙色	外面ヨコナデ 口唇部に刻目文、頸部に4条の沈線（ヘラ描き）
7	3	b	3	暗茶褐色土層	須恵器	小型広口壷	12.6	不明	8.3	密	良好	暗灰色	暗灰色	口縁端部の外面が平坦に仕上げられている 内外面ともに回転ナデ

第２表　出羽代官所跡出土遺物観察表

挿図番号	図版番号	写真図版	遺物番号	出土位置	器種		寸法（cm）			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴
							口径	底径	器高			外面	内面	
10	9	1	1	包含層	磁器	皿	不明	4.2	残1.1	密	良好	明青灰色	明青灰色	見込み及び高台に砂目あり 17世紀
10	9	2	2	包含層	磁器	碗	不明	3.0	残2.9	密	良好	釉の掛分け（オリーブ緑と濃乳白色）高台は無釉	釉の掛分け（オリーブ緑と濃乳白色）	肥前系磁器、17世紀
11	9	3	3	包含層	陶器	碗	不明	4.6	残4.0	密	良好	茶色、無釉	暗茶色、施釉	肥前系陶器、17世紀 外面　回転ナデ
11	9	4	4	包含層	磁器	染付碗	9.1	3.6	5.6	密	良好	明青灰色に青の染付	明青灰色に青の染付	18世紀
11	9	5	5	包含層	磁器	染付皿	10.8	7.8	2.4	密	良好	明青灰色に青の染付	明青灰色に青の染付	18世紀
11	9	6	6	包含層	磁器	染付碗	不明	5.2	残2.6	密	良好	白地に青の染付	白地に青の染付	肥前系染付碗、18～19世紀
11	9	7	7	包含層	磁器	染付蓋	9.6	5.2	2.6	密	良好	淡灰色に青の染付	淡灰色に青の染付	肥前系染付、広東碗の蓋、19世紀前半
11	9	8	8	包含層	陶器	皿	8.6	不明	残1.6	密	良好	暗茶色、底部は無釉で茶色	濃茶色	19世紀

第３表　風呂ノ上遺跡出土遺物観察表

挿図番号	図版番号	写真図版	遺物番号	出土位置	器種		寸法（cm）			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴
							口径	底径	器高			外面	内面	
14	12	1	1	SI－01床面	弥生土器	鼓形器台	17.2	不明	残10.1	1㎜程度の砂粒含む	良好	浅黄橙色	橙色	内外面ともにナデまたはヘラミガキ
14	13	2	2	SI－01床面	弥生土器	鼓形器台	12.2	不明	残7.9	1㎜程度の砂粒含む	良好	赤褐色	赤褐色	内面　ヘラミガキ
14	13	3	3	SI－01床面	弥生土器	甕	22.4	不明	残13.9	1㎜程度の砂粒含む	良好	茶褐色	茶褐色	外面　口縁・胴部櫛歯状工具による波状文、ナデ　頸部回転ナデ　一部煤付着 内面　口縁ナデ
14	13	4	4	SI－01床面	弥生土器	甕	17.0	不明	残12.0	やや粗2㎜以下の砂粒を含む	良好	黄橙色	黄橙色	外面　口縁2条以上の凹線文 頸部に刺突文　全面に煤付着 内面　口縁部ナデ　頸部以下ヘラケズリ
14	13	5	5	SI－01床面	弥生土器	甕	18.4	不明	残5.5	4㎜程度の小石を含む	良好	橙色	黄橙色	外面　10～6条の櫛歯状工具による波状文 内面　口縁部ナデ、頸部ヘラケズリ
14	13	6	6	SI－01床面	弥生土器	甕	21.6	不明	残5.5	1㎜程度の砂粒含む	良好	橙色	橙色	外面　ナデ 内面　口縁部ナデ　頸部ヘラケズリ

第３表　風呂ノ上遺跡出土遺物観察表

挿図番号	図版番号	写真図版	遺物番号	出土位置	器種		寸法（cm）			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴
							口径	底径	器高			外面	内面	
14	13	7	7	SI－01床面	弥生土器	甕	11.6		残3.2	1㎜程度の砂粒含む	良好	淡茶褐色	暗茶褐色	内外面ナデ、一部煤付着
14	13	8	8	SI－01床面	弥生土器	甕または壷		3.2	残2.3	1㎜程度の砂粒含む	良好	淡茶褐色	茶褐色	外面　ナデ、一部煤付着 内面　ヘラケズリ
14	13	9	9	SI－01床面	弥生土器	甕または壷		1.8	残4.0	1㎜程度の砂粒含む	良好	赤褐色	茶褐色	外面　ナデ、一部煤付着 内面　ヘラケズリ
16	14	10	10	溝状遺構	弥生土器	甕	17.2		残4.0	1㎜程度の砂粒含む	良好	赤褐色	赤褐色	外面　12条の櫛歯状工具による波状文、ナデ 内面　口縁部ナデ　頸部ヘラケズリ
18	14	11	11	埋土中	縄文土器	深鉢	不明	不明	残5.8	やや粗	やや甘い	茶褐色	茶褐色	内外面ともに粗い縄文　補修孔あり
18	14	12	12	黒褐色土	弥生土器	壷	不明	不明	残4.5	密	良好	灰褐色～暗茶褐色	暗茶褐色	外面　ナデ　3条と2条の突帯文の間に羽状文 内面　ハケ調整後ナデ
18	14	13	13	包含層	弥生土器	甕	22.7		残4.9	密	良好	淡黄灰色	淡黄灰色	内外面ともナデ　外面に煤付着
18	14	14	14	埋土中	弥生土器	甕	21.2		残3.2	1㎜以下の砂粒含む	良好	淡黄灰色	淡黄灰色	内外面ともナデ
18	14	15	15	包含層	弥生土器	広口壷	16.5		残2.0	密	良好	淡黄灰色	淡黄灰色	内外面　口縁端部拡張部斜格子文
18	14	16	16	埋土中	弥生土器	広口壷	16.0		残1.6	1㎜程度の砂粒含む	良好	灰褐色	灰褐色	内外面　口縁端部拡張部斜格子文
18	14	17	17	包含層	弥生土器	甕または壷			残5.6	1㎜程度の砂粒含む	良好	暗灰褐色	灰褐色	外面　ナデ、一部煤付着 内面　不明
18	14	18	18	SI－01床面	弥生土器	甕または壷		4.2	残4.2	密	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	外面　ナデ 内面　不明
18	14	19	19	包含層	弥生土器	甕	不明	不明	不明	1㎜以下の砂粒含む	良好	淡灰褐色		外面　刻目突帯文　一部煤付着 内面　ハケ目
18	14	20	20	包含層	弥生土器	高杯	18.5		残5.5	1㎜程度の砂粒含む	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	外面　口縁に2条の沈線 ヘラケズリ、ナデ
18	14	21	21	包含層	弥生土器	鉢	14.4		6.8	1㎜程度の砂粒含む	良好	淡黄褐色	黄褐色	内外面ともナデ
19	15	22	22	包含層	弥生土器	甕	23.0		残16.1	密	良好	橙色	茶褐色	外面　口縁上部8条の波状文 口縁下部3条の波状文 内面　口縁～頸部ナデ
19	15	23	23	包含層	弥生土器	甕または壷	不明		残4.0	密	良好	茶褐色	橙色	内面　ヘラケズリ
19	15	24	24	包含層	弥生土器	甕	14.3		残5.1	1㎜程度の砂粒含む	良好	茶褐色	橙色	外面　ナデ、煤付着 内面　ナデ、ヘラケズリ
19	15	25	25	包含層	弥生土器	甕	12.0		残2.6	1㎜程度の砂粒含む	良好	橙色	茶褐色	外面　口縁6条の波状文　口縁下端部煤付着 内面　ヨコナデ
19	15	26	26	包含層	弥生土器	甕	21.8	不明	残6.4	3㎜以下の砂粒含む	良好	黄褐色	黄褐色	外面　口縁6条の波状文　頸部4条の波状文 内面　口縁ヨコナデ　頸部ヘラケズリ
19	15	27	27	包含層	弥生土器	甕	18.4	不明	残6.8	3㎜程度の砂粒含む	やや甘い	黄橙色	黄橙色	外面　口縁7条の波状文 内面　口縁ヨコナデ　頸部ヘラミガキ
19	15	28	28	包含層	弥生土器	甕	15.2	不明	残3.9	密	良好	赤褐色	淡黄褐色	外面　口縁上部6条の波状文　口縁下部4条以上の波状文　一部煤付着 内面　ナデ、ヘラケズリ
19	15	29	29	包含層	弥生土器	甕	19.2	不明	残4.7	2㎜程度の砂粒含む	良好	橙色	暗灰色	外面　口縁4条の波状文　頸部波状文 内面　ナデ

挿図番号	図版番号	写真図版	遺物番号	出土位置	器種		寸法（cm）			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴
							口径	底径	器高			外面	内面	
19	15	30	30	包含層	弥生土器	甕	17.4	不明	残3.9	1 mm 程度の砂粒含む	良好	暗茶褐色	茶褐色	外面　口縁8条の沈線　頸部刺突文 内面　ナデ、ヘラケズリ
19	15	31	31	包含層	弥生土器	甕	17.0	不明	残4.1	密	良好	橙色	橙色	外面　口縁部波状文　一部煤付着 内面　ヨコナデ
19	15	32	32	包含層	弥生土器	甕	12.2	不明	残4.0	1 mm 程度の砂粒含む	良好	暗茶褐色	淡茶褐色	外面　ナデ 内面　ナデ、ヘラケズリ
19	15	33	33	包含層	弥生土器	甕または壷	15.2	不明	残4.3	密	良好	橙色	橙色	外面　ナデ 内面　ナデ
20	15	34	34	包含層	須恵器	杯	11.6	不明	残4.5	2 mm 以下の砂粒含む	良好	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ、外面底部回転ヘラケズリ
20	16	35	35	包含層	須恵器	杯	不明	不明	残3.8	密	良好	青灰色	灰色	外面　受部から底部にかけて自然釉
20	16	36	36	包含層	須恵器	高台付杯	不明	13.6	残3.0	密	良好	青灰色	灰色	内外面とも回転ナデ
20	16	37	37	包含層	須恵器	高台付杯	不明	9.8	残1.8	密	良好	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ、張り付け高台
20	16	38	38	包含層	須恵器	高台付杯	不明	11.9	残1.1	密	良好	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ、張り付け高台
20	16	39	39	包含層	須恵器	高台付杯	不明	10.1	残1.1	密	良好	灰色	灰色	内外面とも回転ナデ、張り付け高台
21	16	40	40	包含層	龍泉窯系青磁	碗	19.0	不明	残4.0	密	良好	淡緑色	淡緑色	内外面ともに厚い青磁釉、片切彫（ヘラ）の簡略化された文様
21	16	41	41	埋土中	龍泉窯系青磁	碗	16.2	不明	残2.0	密	良好	緑灰色	緑灰色	内外面ともに無文？口縁が玉縁状になっている
21	16	42	42	埋土中	龍泉窯系青磁	碗	不明	不明	残5.0	密	良好	青緑色	青緑色	内外面ともに無文
21	16	43	43	包含層	龍泉窯系青磁	蓮弁文碗	不明	不明	残3.8	素地は密	良好	薄い釉によりオリーブ灰色	薄い釉によりオリーブ灰色	外面線描きによる簡略化された蓮弁文 内面無文
22	16	44	44	埋土中	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残4.4	密	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	軟質　内面ハケ目、条線
22	16	45	45	埋土中	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残4.0	密	良好	黄灰色	黄灰色	軟質　外面ハケ目、内面条線
22	16	46	46	包含層	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残2.8	密	良好	黄灰色	黄灰色	軟質　外面ハケ目、内面条線
22	16	47	47	包含層	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残2.8	密	良好	灰色	灰色	軟質　内外面ともにハケ目、内面条線
22	16	48	48	包含層	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残3.8	密	良好	灰色	灰色	軟質　外面ハケ目、内面条線
22	16	49	49	包含層	在地系陶器	擂鉢	不明	不明	残4.1	密	良好	灰色	灰色	軟質　外面ハケ目、内面条線
22	16	50	50	包含層	備前焼？	擂鉢	不明	不明	残3.2	密	良好	灰色	灰色	硬質　外面不明、内面条線
22	16	51	51	埋土中	備前焼	擂鉢	不明	不明	残5.9	密	良好	赤褐色～暗赤褐色	赤褐色	硬質　内面条線
23	16	52	52	埋土中	石器	石鏃	長さ：4.5cm、幅：2.4cm、厚さ：0.8cm							

Ⅳ. まとめ

今回の調査は町道改良に先立って、工区内に所在する４遺跡の工事で直接影響を受ける部分について、平成14～16年度の３ケ年に分けて調査を実施した。限られた範囲の調査であったが、弥生時代の竪穴住居跡や中世の古墓、貿易磁器や中世陶器などを検出することができた。当地方の古代史や中世史を考える貴重な資料になるであろう。

以下調査によって得られた成果の概要について各遺跡ごとにまとめておきたい。

福音寺遺跡

遺跡の名前が示すとおり、福音寺という寺があったと伝えられる遺跡である。今回の調査では遺構は古墓１基のみで、直接福音寺に関する遺構は確認できなかった。古墓も年代を特定する遺物が出土していないが、野田西遺跡（邑南町上亀谷）で調査された中世古墓に類似しており、中世後半期の墓としておきたい。また、木葉文土器は広島県北広島町新庄の横路遺跡出土の木葉文土器と酷似しており、弥生時代前期の陰陽の交流を考える資料として貴重である。

高見屋横瓦窯跡

邑南町瑞穂地区は良質の粘土の粘土と燃料材が豊富であることなどから、明治以降瓦の生産が行われてきた。現在確認されている瓦窯跡は15ヶ所で、その内４ヶ所が高見屋横瓦窯跡のある淀原地区に所在している。しかし、今日まで瓦窯跡の考古学的調査が実施されておらず、構造について不明な点も多く、今回の調査の成果に期待が寄せられたが、昭和40年代の道路改良工事の際完全に破壊されていることが判明し、瓦窯跡の構造について、新たな知見を得ることはできなかった。

出羽代官所跡

当地方は16世紀中ごろから毛利氏によって治められていたが、関ヶ原の合戦の敗北により毛利氏が防長２ケ国に削封になった後、しばらくは徳川幕府直轄地であった。

元和５(1619) 年古田家が5万石をもって浜田に封じられてから瑞穂地区の大半が浜田藩領に属することとなった。その後松平周防守家、松平右近将監家と領主は変わったが、一貫して浜田藩の統治下に置かれた。

さて、浜田藩は領内の統治の機構として、町奉行による町方支配、浦奉行による浦方支配、郡奉行による地方（村方）支配が行われた。郡奉行の配下に出羽組、市木組等七組を配置し、その内の六組に代官所を設けた。

今回調査した出羽代官所跡は、元和５年出羽組31ケ村7800石の統治機関として浄林寺北側に設けられた。代官所の面積は約1700㎡と伝えられ、絵図も残されている。正保４(1647) 年古田家郷帳によると「八日市村に四斗八升代官屋敷、一斗八升御鷹部屋、御馬屋敷。二五石三斗五合市屋敷」とある。また、承応２(1652) 年の検地帳にも「出羽代官屋敷一反三畝二分、御鷹部屋、御馬屋敷三畝二七部」と記されている。代官所は天保13(1842) 年に廃止されたとされ、約200年間にわたり

当地方を統治していたのである。

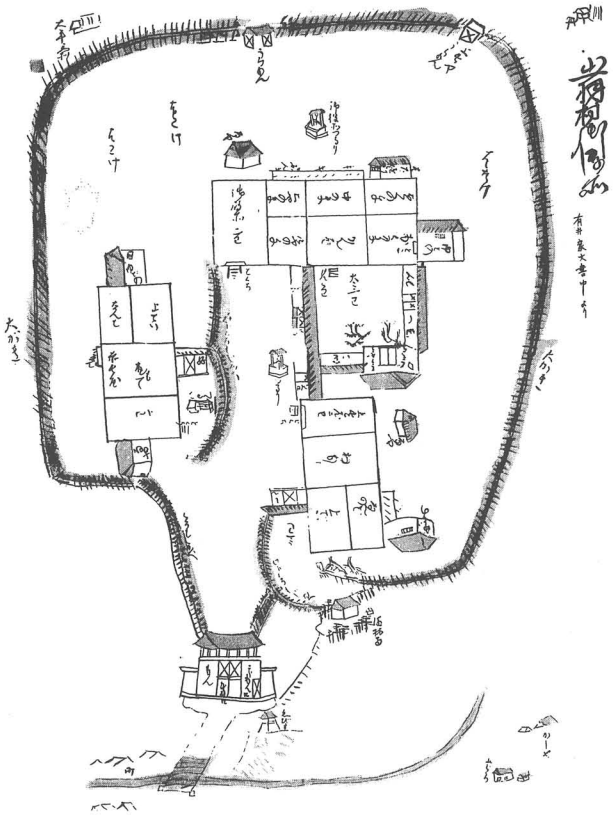
今回調査した場所は代官所入り口付近で、門のあった場所と想定される平坦部分であったが、後世の宅地化により改変されており、遺構の確認は出来なかった。しかしながら、17世紀の肥前系磁器や唐津系の天目茶碗、18、19世紀肥前系陶磁器が出土し、遺物の時期と代官所が存続していたとされる時期がほぼ一致し、文献資料を裏付ける成果を得ることが出来た。

風呂ノ上遺跡

調査により弥生時代の竪穴住居跡や溝状遺構をはじめ、縄文土器、弥生土器、須恵器、貿易磁器などが出土した。

竪穴住居跡は弥生時代後期前半のもので、住居跡に立つと眼下には整備された水田を望むことが出来る。本遺跡の例や今までの調査の成果等から、弥生時代の集落の多くがこのように、沖積地を望む丘陵縁辺部を中心に形成されていったことがわかる。

縄文土器は１点しか出土していないが、ほとんど出土例のない縄文時代中期のもので、風呂ノ上遺跡周辺においても、縄文時代中期に人々の営みがあったことが明らかとなった。また、貿易磁器の出土は、風呂ノ上遺跡周辺に中世の豪族の館の存在を想定させる。遺跡近くには中世の城館跡の堀越城跡や、富永出羽氏の菩提寺と伝えられる浄林寺跡があることなどから、有力国人の富永出羽氏や高橋出羽氏に関する居館があったのかもしれない。



第24図　出羽代官所絵図

図　　版

a．福音寺遺跡
遠景（北から）

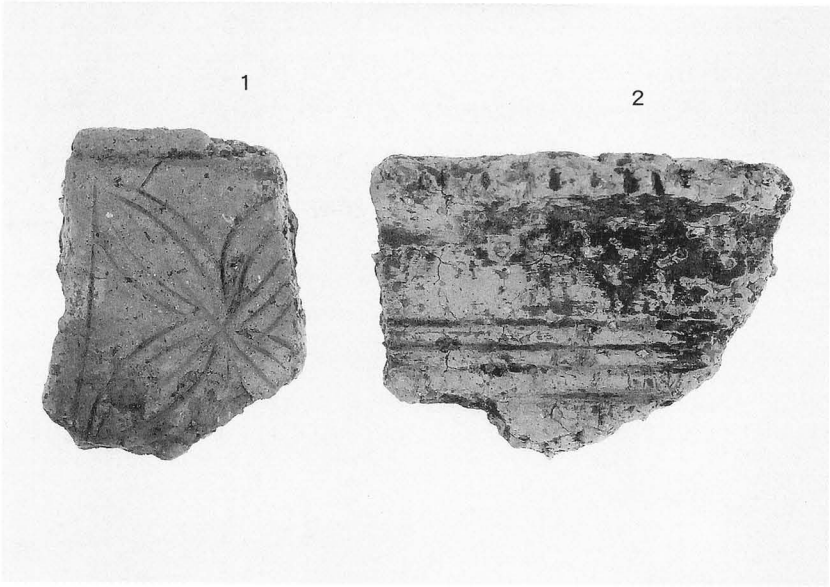
b．同近景
（南西から）

c．石組遺構
（北東から）

a．福音寺遺跡
石組遺構
（南東から）

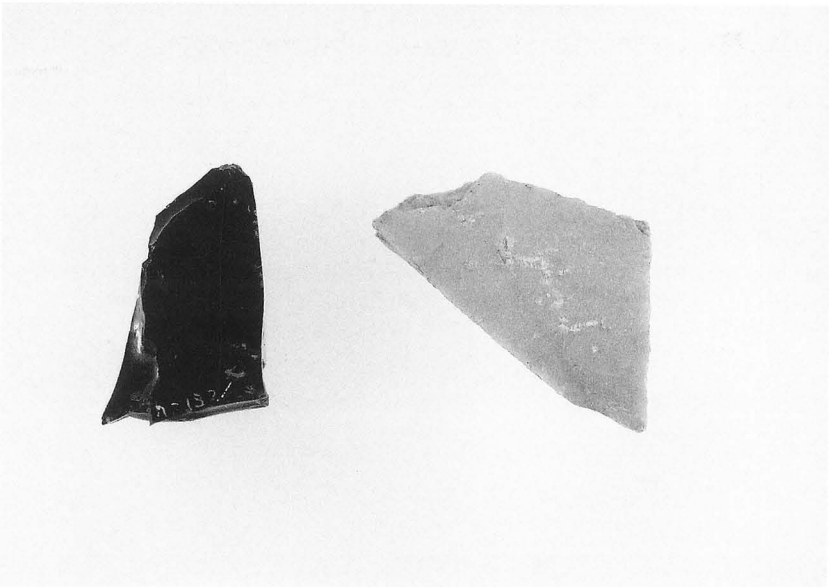
b．同
（南西から）

c．同完掘状況
（南東から）

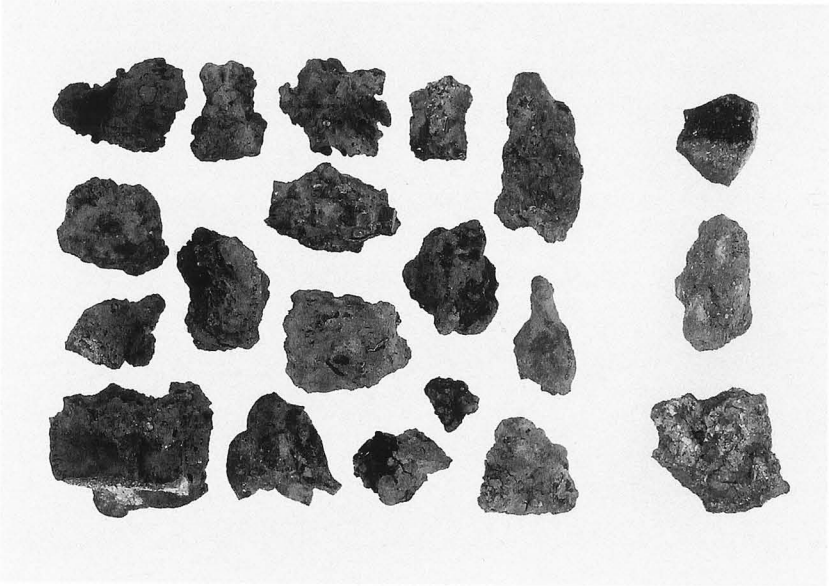


a．福音寺遺跡出土遺物

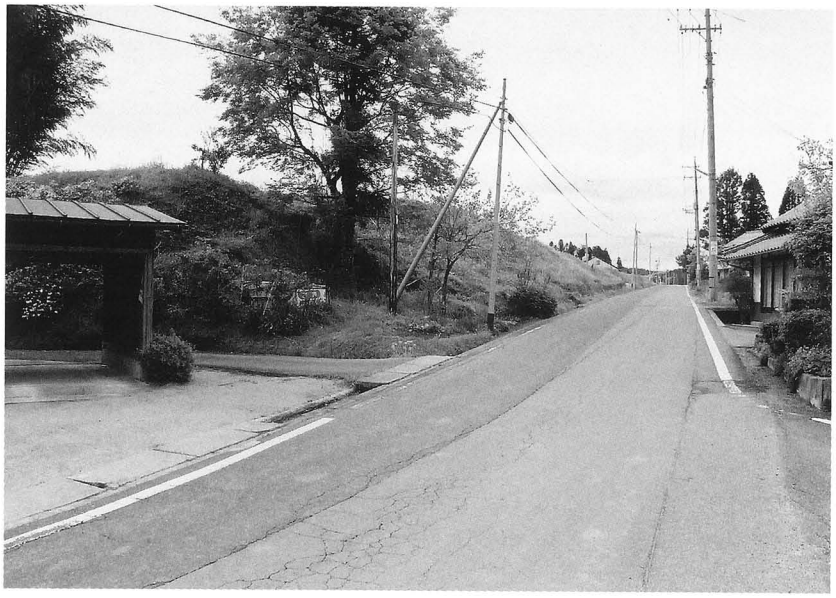
b．同



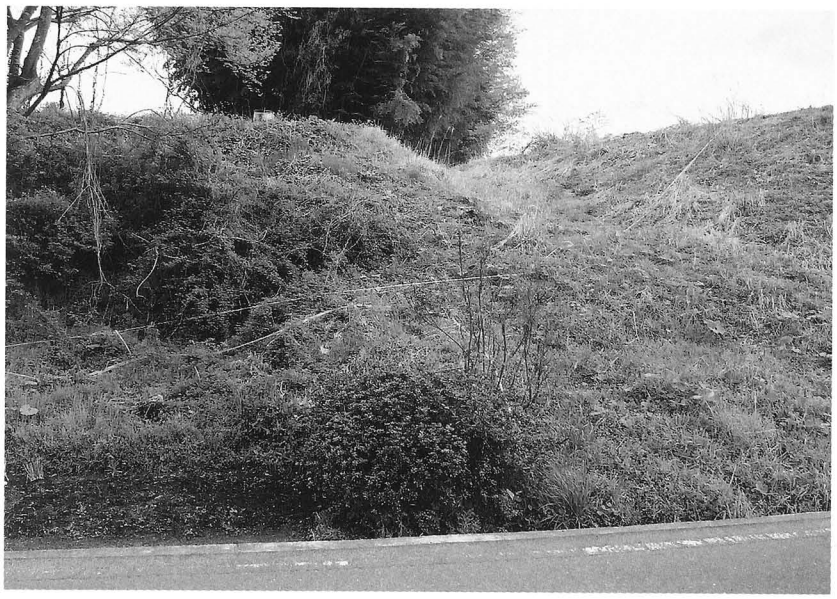
c．同



a．福音寺遺跡出土遺物



b．高見屋横瓦窯跡遠景
（北東から）



c．同近景
（北西から）

a．高見屋横瓦窯跡
調査風景
（南から）

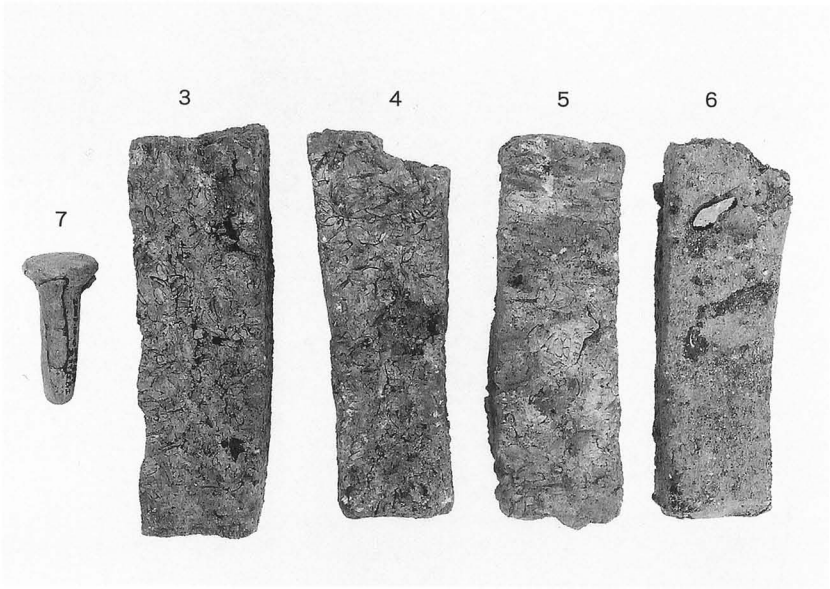
b．同完掘状況
（北西から）

c．同完掘状況
（同）

a．高見屋横瓦窯跡
遺物出土状況
（北西から）

b．同出土遺物

c．同



a．高見屋横瓦窯跡
出土遺物

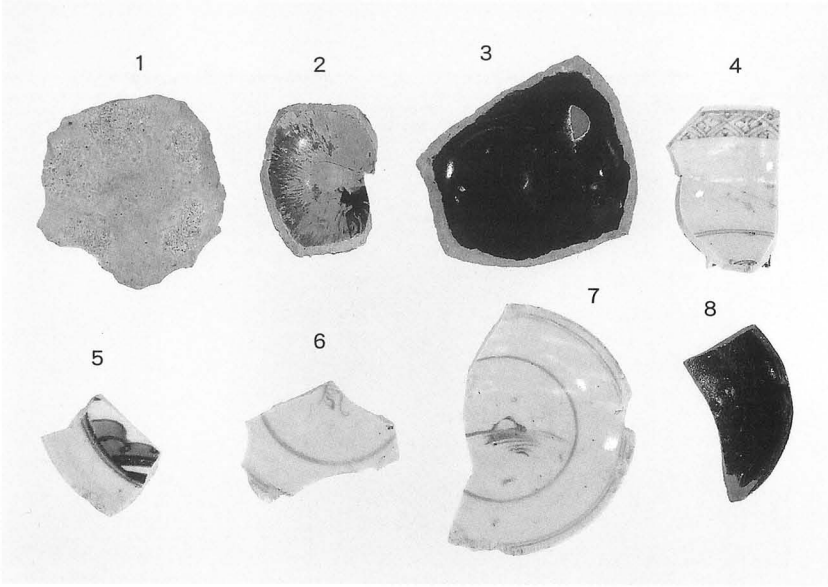
b．出羽代官所跡
（西から）

c．同
（東から）

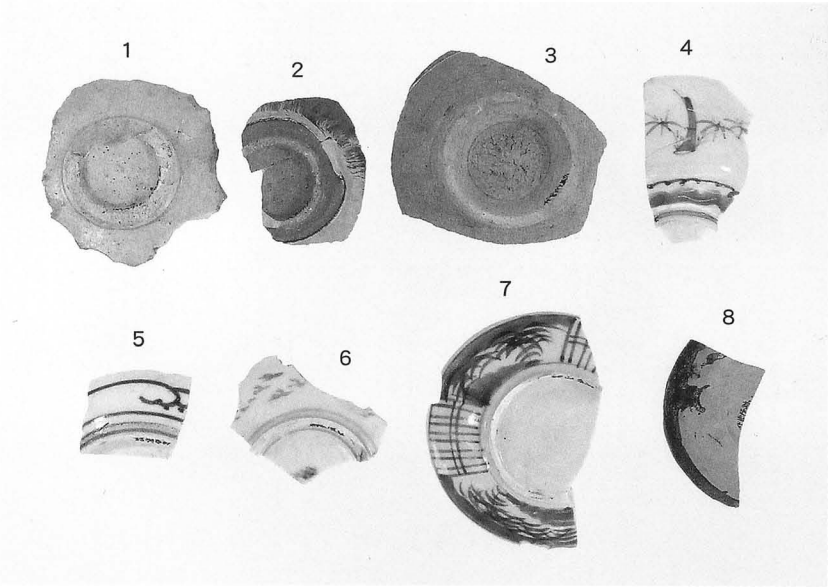
a．出羽代官所跡
　トレンチ（西から）

b．同
　（同）

c．同
　（同）

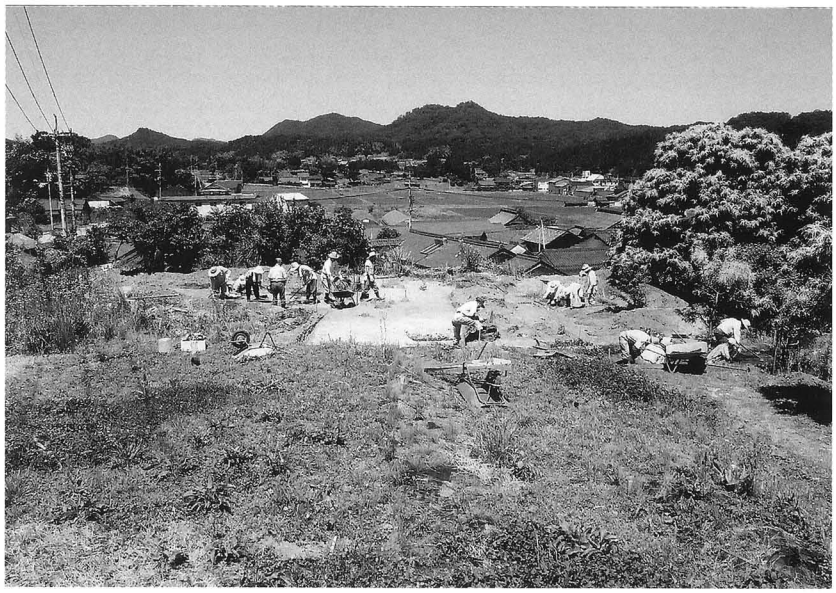


a．出羽代官所跡
　トレンチ出土遺物



b．同

c．風呂ノ上遺跡遠景
　（北から）



a．風呂ノ上遺跡近景
（東から）

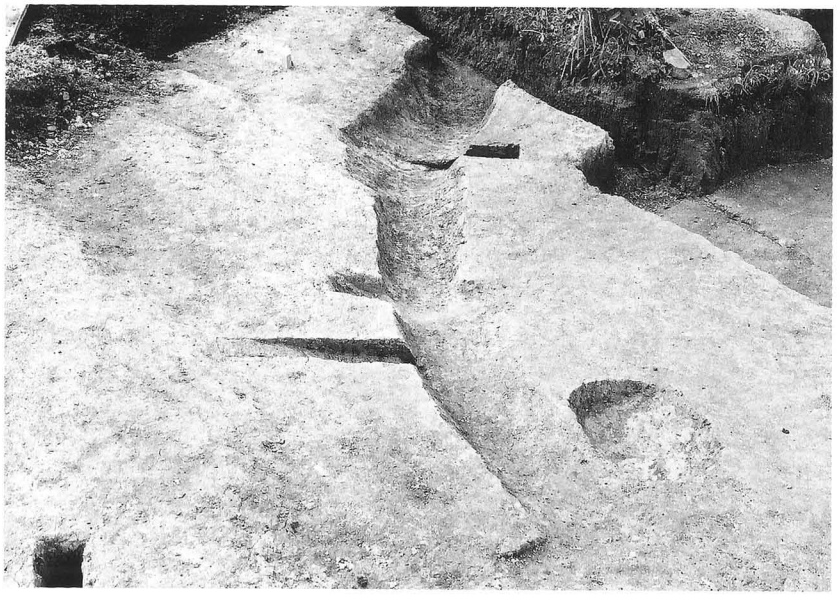
b．竪穴住居跡検出状況
（南から）

c．同
（同）

a．風呂ノ上遺跡
竪穴住居跡完掘状況
（南から）

b．同
（同）

c．溝状遺構１、
土坑１・２完掘状況
（同）



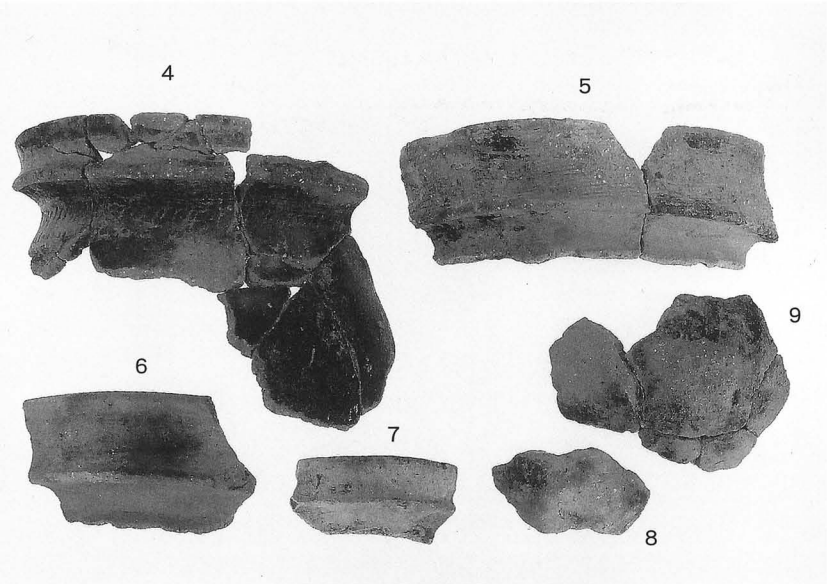
a．風呂ノ上遺跡
溝状遺構 2
土坑 3 完掘状況
（南東から）

b．溝状遺構 3 完掘状況
（南から）

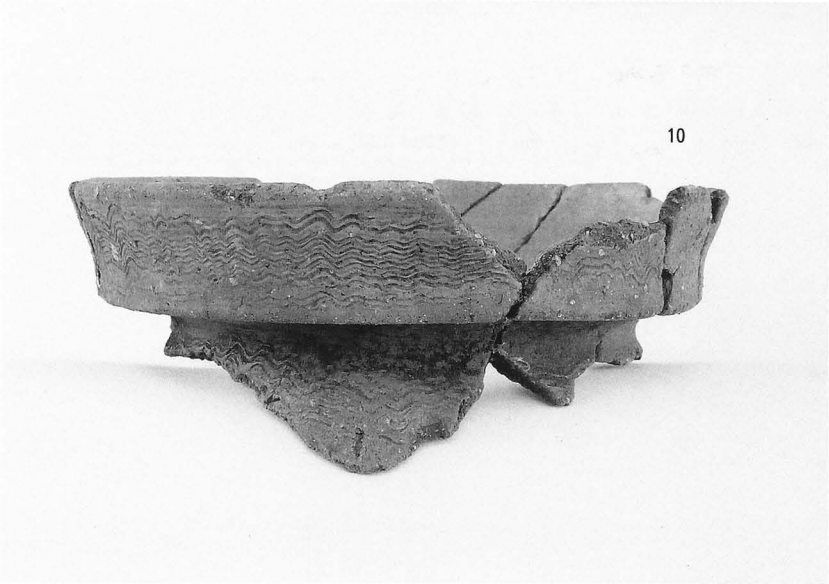
c．竪住居跡床面
出土遺物

a．風呂ノ上遺跡
竪穴住居跡床面
出土遺物

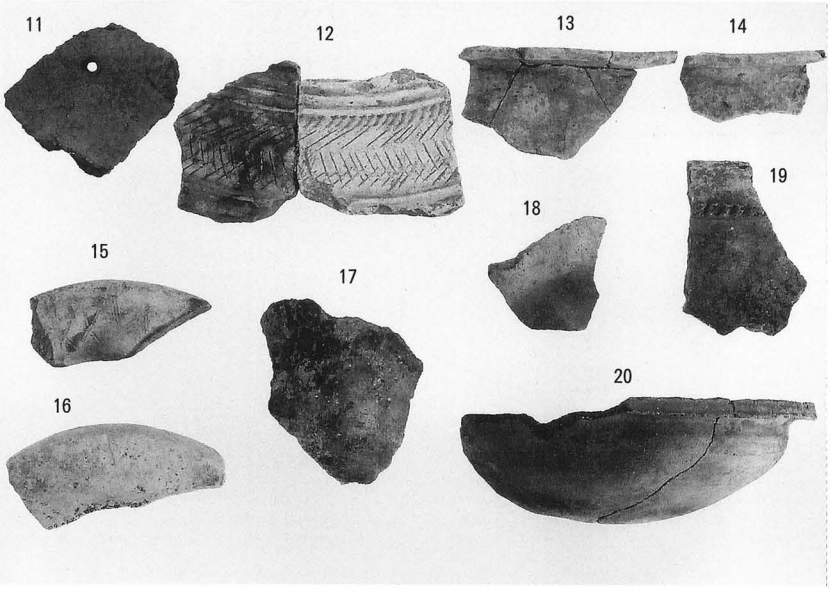
b．同



c．同



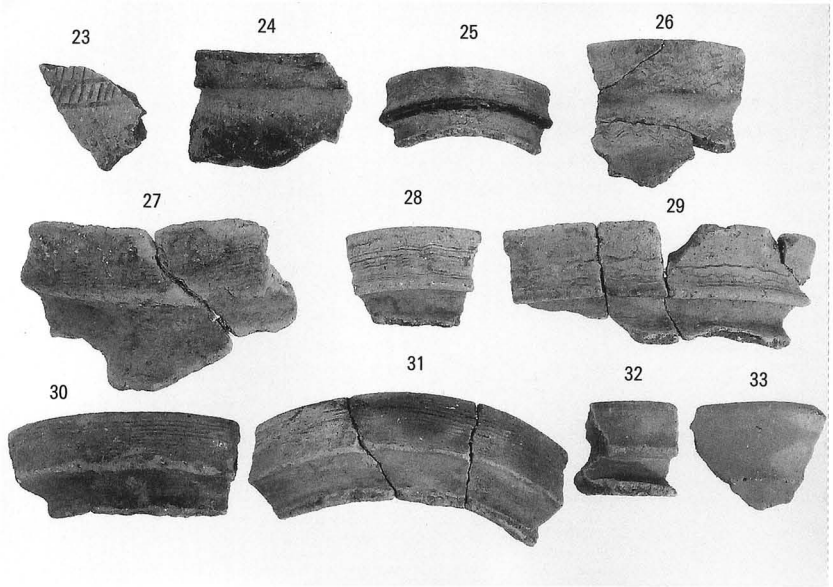
a．風呂ノ神遺跡
溝状遺構１出土遺物



b．埋土や包含層から
出土した遺物

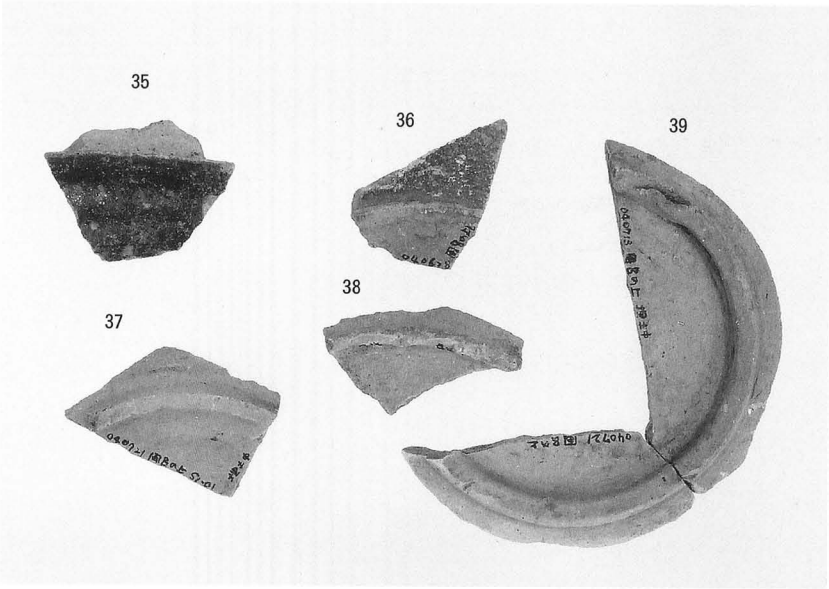
c．同

a．風呂ノ上遺跡
埋土や包含層から
出土した遺物

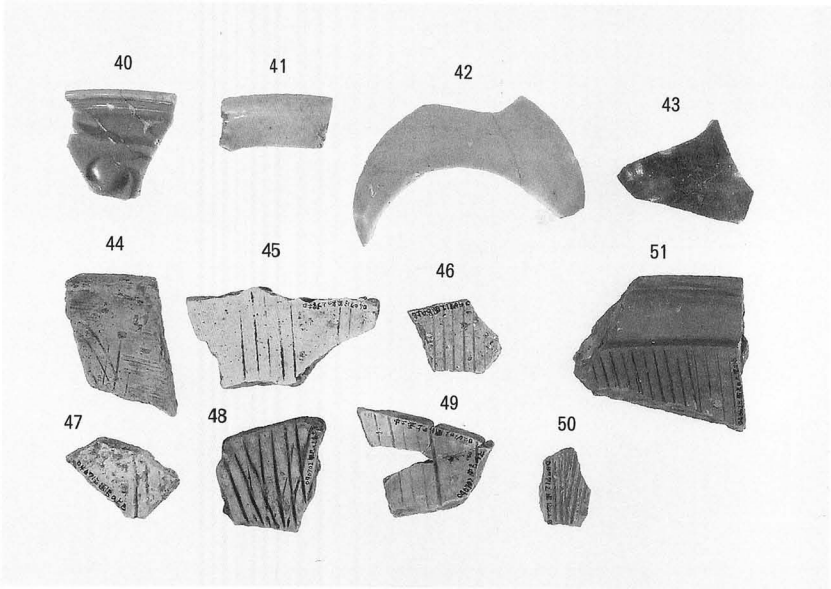


b．同

c．同



a．風呂ノ上遺跡
埋土や包含層から
出土した遺物



b．同

c．同

a．現地見学会風景

b．同

報　告　書　抄　録

ふりがな	ふくおんじいせき・たかみやよこかわらかまあと・いずわだいかんしょあと・ふろのかみいせき
書名	福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡・風呂ノ上遺跡発掘調査報告書
副書名	町道小河内淀原線道路改良工事に伴う発掘調査
巻次	邑南町埋蔵文化財調査報告書第１集
編著者名	森岡弘典・角矢永嗣・佐々木義彦
編集機関	邑南町教育委員会
所在地	〒696-0393　島根県邑智郡邑南町三日市32番地
発行年月日	西暦　2005年3月

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
福音寺遺跡	島根県邑智郡邑南町淀原（しまね おおち おおなん よどはら）	324493		34度51分19秒	132度32分36秒	20020724～20030117	55	町道工事
高見屋横瓦窯跡	島根県邑智郡邑南町淀原（しまね おおち おおなん よどはら）	324493		34度51分16秒	132度32分31秒	20031006～20031014	50	
出羽代官所跡	島根県邑智郡邑南町出羽（しまね おおち おおなん いずわ）	324493		34度51分16秒	132度32分50秒	20040727～20040730	21	町道工事
風呂ノ上遺跡	島根県邑智郡邑南町出羽（しまね おおち おおなん いずわ）	324493		34度51分17秒	132度32分51秒	20040609～20040917	397	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
福音寺遺跡	散布地	中世	古墓１基	弥生土器・須恵器・鉄滓	
高見屋横瓦窯跡	生産遺跡	大正	遺構なし	ヒダテ モミツチ ハセ	昭和40年代の道路改良で完全に破壊
出羽代官所跡	役所	近世	遺構なし	陶磁器	
風呂ノ上遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡１棟	弥生土器	小規模の集落跡

平成17年（2005）年3月

島根県邑智郡邑南町

福音寺遺跡・高見屋横瓦窯跡・出羽代官所跡
風呂ノ上遺跡発掘調査報告書

町道小河内淀原線道路改良工事に伴う発掘調査

編集・発行　島根県邑南町教育委員会
印　　刷　柏村印刷株式会社